

始





日本船舶  
醫藥便覽

395  
167



## 注 意 事 項

- 本便覧は、日本船舶医療便覧に基き、船内に於て医療或は應急手當を行ふ場合の、藥品應用の参考として編纂されたものであります。
- 本便覧は船醫又は、特殊技能者を對照として發行されたものであります。
- 従つて應用する藥品は、法定の船内醫療函に備付の藥品に限られ、施行の範圍も船舶内に限定されて居ります。
- 本書の内容改訂の際は御報申上ますから所有者は發行所宛御一報下さい。

### 薬品の取扱と貯藏法に就て

- 一般に藥品は可成涼しい濕氣の尠い場所に貯藏し、直射日光の當らぬ様、又急激な温度の變化を與へぬ様注意すること。

#### 特に遮光を必要とするもの

- サリチル酸ソーダ錠 ●ヨードカリ錠 ●過酸化水素水
- 過マンガン酸カリ ●硝酸銀 ●ヨードホルム
- マーキュロクローム

#### 劇 薬

- ◀バルビタール錠 ▶ヨードカリ錠 ▶ホミカエキス十倍末
- ◀磷酸コデイン錠 ▶ロートエキス十倍末 ▶鹽素酸カリ
- ◀過マンガン酸カリ ▶クレオソート ▶醋酸鉛
- ◀硝酸銀 ▶マーキュロクローム ▶ヨードホルム

は劇薬であるから、赤輪劃に赤文字のレッテルを貼り、他の藥品と區別して注意して貯藏すること。又醫師の許可無くして極量以上を使用せぬこと。

#### 常備薬一覧表の處方に就て

- |     |   |         |              |
|-----|---|---------|--------------|
| 例へば | { | アスピリン錠  | 3            |
|     |   | アミノピリン錠 | 3            |
|     |   | 健胃錠     | 3 (一日3回分服食後) |

とある場合には上記の錠劑を各々三つに分けて、アスピリン錠1個アミノピリン錠1個健胃錠1個宛を併せたものを一回量として食後に服用すること。

- |     |   |          |              |
|-----|---|----------|--------------|
| 例へば | { | 安息香酸     |              |
|     |   | ソーダカフェイン | 0.5          |
|     |   | 健胃錠      | 6 (一日3回分服食後) |

とある場合には、安息香酸ソーダ 0.5 瓦を三包に分け其各包へ健胃錠2個宛を入れたものを一回量として食後に服用すること。

### 医療器械の保存に就て

小外科器械は、使用前充分よく消毒し(煮沸消毒、又は50%アルコールに浸す)使用後は再び消毒し、よく拭いて乾燥し、錆びぬ様、ワセリン又は、オレフ油を表面へ塗布し函に收めて保存すること。



(小外科器具)

内科

病名と治療薬品一覽

病名の次の数字は日本船舶醫  
療便覧の頁。  
薬品名の次の数字は瓦数(錠  
剤の場合は個数)を示す。

病名	治療薬品名			
胃カタル(231)、腸カタ ル(231)、食慾不振(231) 消化不良(232)、胃下垂 (232)、胃擴張(232)	{健胃錠 9錠 一日3回分服食前 稀鹽酸 1.0 苦味チンキ 3.0 水 96.0 一日3回分服食後	{ヂアスターゼ 0.5 重炭酸ソーダ 3.0 ロートエキス 十倍末 0.3 一日3回分服食後	{ヂアスターゼ 0.5 重炭酸ソーダ 3.0 ホミカエキス 十倍末 0.3 一日3回分服食前	
胃酸過多症、胃痙攣(胃痛) 腹痛、胃潰瘍(232)、嘔吐、 胃癌(232)、盲腸炎(244)	{重炭酸ソーダ 3.0 ロートエキス 十倍末 0.3 デルマトール 0.5 一日3回分服食後 (胃酸過多症)	{磷酸コデイン錠 2-5 健胃錠 3-6 1回頓服 (胃痙攣・腹痛・嘔吐)	{コロダイン 10-20滴 1回頓服 (胃痛・腹痛)	
下痢(234)、赤痢(234)、 チフス(279)、コレラ(279)	{ヒマシ油 25-30 1回頓服 (腸内清掃)	{次硝酸蒼鉛錠 6 一日3回分服食前 (下痢)	{デルマトール 1.0 ロートエキス 十倍末 0.3 重炭酸ソーダ 1.5 一日3回分服食前 (腹痛を伴ふもの)	
便秘(235)	{グリセリン 15 水 15 (浣腸)	{ヒマシ油 15-30 1回頓服 ロカイラツバ丸 2-3丸 1回頓服	{硫酸マグネシア 30 苦味チンキ 3 水 100 一日量3回分服 ワレリルアセチルフ エーナルフタレイン錠 3錠 1回頓服	
宿酔(二日酔)	{重炭酸ソーダ 2.0 ロートエキス 十倍末 0.3 1回頓服	{重炭酸ソーダ 2.0 苦味チンキ 1.0 水 30.0 1回頓服	{健胃錠 6 1回頓服	
寄生虫(236) (蛔虫、蟯虫、蛭虫、十二指腸虫)	{(A) サントニン錠 3錠 一日1回 空腹時頓服 二日間連続服用	{(B) ヒマシ油 25 就床前頓服 (A)と併用す	{(C) ワレリルアセチルフ エーナルフタ レイン錠 3 就床前頓服 (A)と併用す	
カタル性黄疸(238) 膽石症(239)	{健胃錠 9 一日3回分服食前	{重炭酸ソーダ 2.0 ロートエキス 十倍末 0.3 一日3回分服食後 (疼痛ある場合)	{硫酸マグネシア 10 苦味チンキ 2 水 90 一日量3回分服	
中毒(205) (砒素、鉛、銅其他の金屬中毒) (魚類、貝類、其他の飲食物) (モヒ、青酸、腐等の中毒)	{マグネシア 5 水 30 乳劑として 1回頓服	{ヒマシ油 30 1回頓服 安息香酸ソーダカ フェイン 0.5 頓服(青酸中毒)	{0.1% 過マンガン酸 カリ液 500 (胃洗滌)	

内科

病名と治療薬品一覽

病名の次の数字は日本船舶醫  
療便覧の頁。  
薬品名の次の数字は瓦数(錠  
剤の場合は個数)を示す。

病名	治療薬品名			
歯痛(228) 歯齦炎(229)	{クレオソート (散布) 稀ヨードチンキ (散布)	{過酸化水素水 30 水 70 (含嗽)	{アスピリン錠 1 1回頓服	
口腔の炎症と潰瘍 (229)	{稀ヨードチンキ 10 グリセリン 10 (散布)	{硝酸銀 1.0 蒸溜水 100.0 (散布)	{3%重炭酸ソー ダ水(含嗽) 2%硼酸水 (含嗽)	
急性扁桃腺炎(229)	{2%過酸化水素水 3%重炭酸 ソーダ水 2%硼酸水 (何れも含嗽)	{アスピリン錠 3 一日3回分服食後	{アスピリン錠 3 アミノピリン錠 3 一日3回分服食後	
感冒(風邪) 流行性感冒(266)、悪寒	{アスピリン錠 1 ブロムワレリル 尿素錠 1 1回頓服	{アミノピリン錠 3 鹽酸キニーネ錠 3 一日3回分服食後	{アスピリン錠 3 アミノピリン錠 3 健胃錠 3 一日3回分服食後	
頭痛、偏頭痛	{アスピリン錠 1 ブロムワレリル 尿素錠 1 1回頓服	{アミノピリン錠 2 安息香酸ソーダ カフェイン 0.3 1回頓服	{バルビタール錠 2 1回頓服	
肺炎(218)、耳下腺炎、 扁桃腺炎、	{鹽酸 キニーネ錠 6 アミノピリン錠 3 ブロムワレリ ル尿素錠 3 一日3回分服食後	{アスピリン錠 3 アミノピリン錠 3 安息香酸ソーダ カフェイン 0.3 一日3回分服食後	{乳酸エトキシヂ アミノアクリヂン 0.5 薄荷水 20.0 水 480.0 一日數回含嗽 (扁桃腺炎)	
咳嗽、百日咳、喘息、 急性気管枝カタル(217)	{セネガシロツブ 10 水 90 一日3回分服後食	{セネガシロツブ 10 磷酸コデイン錠 3 ヨードカリ錠 2 水 90 一日3回分服食後 (百日咳・喘息・頑固な咳)	{アスピリン錠 3 磷酸コデイン錠 3 ブロムワレリ ル錠 3 一日3回分服	
肋膜炎(222)、胸膜炎(222)、 慢性気管枝カタル(217)、 肺結核(219)	{アミノピリン錠 3 健胃錠 3 一日3回分服食後	{アミノピリン錠 3 炭酸グアヤコ ール丸 9-18 ビタミンB劑 3 一日3回分服食後	{サリチル酸 ソーダ錠 6 規鐵丸 3 健胃錠 6 一日3回分服食後	
咯血(肺結核) 吐血(胃潰瘍)	{食鹽 5-7 水 100 數回に分ちて服用	{臓器性止血成分 製劑 3-6錠 一日3回分服食間	{注意=患部を 冷やす事	

内科

病名と治療薬品一覽

病名の次の数字は日本船舶醫  
療便覧の頁。  
薬品名の次の数字は互数（錠  
剤の場合は個数）を示す。

	病名	治療薬品名			
血液循環器疾患 (四十二章参照)	假死(人事不省)(223) 脳貧血	{ 葡萄酒 20-50cc 1回飲用 アンモニア水 (嗅引)	{ 熱コーヒ 50-100cc 1回飲用	{ 安息香酸ソーダ カフェイン 0.3-0.5 1回頓服	
	心臓病(223) 狭心症(224) 静脈炎(227)	{ 安息香酸ソーダ カフェイン 0.3-0.5 1回頓服	{ 磷酸コデイン錠 1-3 1回頓服	注意 患部を冷やす事	
	貧血(228) (結核、癌、胃潰瘍、十二指腸虫 外出血、内出血、等考慮)	{ 規鐵丸 3 健胃錠 6 1日3回分服	{ 規鐵丸 3 ビタミン B製剤 6 1日3回分服		
	内出血(109) (咯血、腎臓出血、膀胱出血、 胃出血、腸出血)	{ 食鹽 5-7 水 100 数回に分ちて飲用	{ 臓器性止血成分 製剤 3-6錠 1日3回分服食間	注意-安静と患 部を冷やすこと	
神経疾患 (五十四章参照)	神経衰弱、ヒステリー、 興奮症、脳充血、不眠症、 逆上(のぼせ)、頭痛、	{ ブロムカリ 1.5-3.0 苦味チンキ 2.0 水 100.0 1日3回分服食後	{ ブロムワレリル 尿素錠 6-9 健胃錠 6 1日3回分服食後	{ バルビ タール錠 6 1日3回分服	
	癲癇(358)、舞踏病 痙攣(361)、躁暴症(351)、	{ ブロムカリ 3.0 苦味チンキ 2.0 水 100.0 1日3回分服食後	{ ブロムワレリル 尿素錠 3-6 就床前頓服	{ バルビタール錠 3-10 1回頓服	
	船暈(204)	{ ブロムワレリル 尿素錠 6 健胃錠 3 乗船前頓服	{ ブロム ワレリル錠 6 磷酸 コデイン錠 3 乗船前頓服	{ バルビタール錠 3-5 健胃錠 3 乗船前頓服	
脚氣(四章九 章十照)	脚氣(321)、浮腫(322) 心悸亢進(322)、麻痺、(し びれ)(232)	{ 硫酸マグネシア 10-30 苦味チンキ 3 水 100 1日3回分服食後	{ ビタミンB製剤 6-12 健胃錠 6 1日3回分服食後		
傳染性疾患	チフス(261)、赤痢(234)、デフ テリヤ(268)、嗜眠性腸炎(266) マラリヤ(299)、デング熱(304) 猩紅熱(257)、麻疹(259)、ペスト (272)、コレラ(279)、黄熱(286) 天然痘(294)	{ 鹽酸キノール錠 1日2-3回 5錠宛内服(マラリヤ)	{ マラリヤ鑑防の 目的には隔日5 錠宛内服	{ 四十六章 四十七章 四十八章 } 参照	

内科

病名と治療薬品一覽

病名の次の数字は日本船舶醫  
療便覧の頁。  
薬品名の次の数字は互数（錠  
剤の場合は個数）を示す。

	病名	治療薬品名			
泌尿器疾患 (四十五章参照)	腎臓炎(245) 尿管毒症(247) 腎石疝痛(248)	{ 醋酸カリ液 10cc 苦味チンキ 2cc 水 88cc 1日3回分服食後	{ 安息香酸ソーダ カフェイン 0.5-1.0 健胃錠 6 1日3回分服食後	{ 磷酸コデイン錠 2-5 頓服(疝痛)	
	糖尿病(317) 腎盂尿管炎(250)	{ 醋酸カリ液 10cc 苦味チンキ 2cc 水 88cc 1日3回分服食後	{ 乳酸エトキシジア ミノアクリチン 0.1 マグネシア 1.0 1日量3回分服食後	{ ホミカエキス 十倍末 0.5 重曹 1.0 1日3回分服 (夜尿症)	
性病 (五十一章参照)	淋疾(326)、尿道炎(331) 睾丸炎(330)、膀胱カタ ル(249)	{ 白檀油 3.0 カプセル9個に分ち 1日3回分服食後	{ コバイバ バルサム 3.0 1日3回分服食後 0.1%乳酸エトキシジ アミノアクリチン液 (尿道洗滌)	{ 健胃錠 9 1日3回分服食後 (白檀油と併用)	
	龜頭包皮灸(325) 軟性下疳(331)	{ 水銀軟膏 10瓦 (患部塗布)	{ 2%マーキュロ クローム液 (患部塗布)	{ 硼酸軟膏 100 乳酸エトキシジ アミノアクリチン 5 (混和・患部塗布)	
	梅毒(332) 瘰癧(るみれき)	{ ヨードカリ錠 3 健胃錠 6 (1日量3回分服)	{ 水銀軟膏 3 (上膊擦り込み)		
性病豫防(336)	{ 消毒クリーム 1 (事前塗布)	{ 五萬倍の過マン ガン酸カリ液 (事後洗滌)	{ 0.1%乳酸エト キシジアミノア クリチン液 (事後洗滌)		
婦人科疾患	月經不順、月經過多、子宮 出血、逆上(のぼせ)、耳鳴	{ ロカイヤラツバ 丸 3 ブロムワレリル 尿素錠 3 1日量3回分服 食後	{ 臓器性止血成分 製剤 6 1日3回分服食間 (月經過多)	{ ブロムカリ 1.5 苦味チンキ 2 水 98 1日3回分服食後	
	白帶下、陰門炎、子宮口 及陰癰爛	{ 0.1%乳酸エトキ シジアミノアクリチン液 又は 0.2%過マンガン 酸カリ液(洗滌)	{ 2%醋酸鉛液 (洗滌)	{ デルマトール 1.0 綿球タンボンと して腔内挿入	
	悪阻	{ ブロムワレリル 尿素錠 5 健胃錠 5 1回頓服	{ 重碳酸ソーダ 2.0 ロートエキス 十倍末 0.3 1日量3回分服食後	{ 磷酸 コデイン錠 3 ビタミン B製剤 3 1回頓服	

外科

病名と治療薬品一覧

病名の次の数字は日本船舶  
検査員の頁。  
薬品名の次の数字は互換(錠  
剤の場合は個数)を示す。

病名	治療薬品名			
切創(109)、擦過傷、刺傷、 裂傷、咬傷(117)、靴傷(く つづれ) 其他一般外傷、外傷に よる内外出血(102)	過酸化水素水 50%アルコール 0.5%クレゾール 石鹼液 (何れも洗滌用)	稀ヨードチンキ 2%マーキユロ クローム液 (何れも散布)	デルマトール ヨードホルム (散布) 硼酸軟膏 (貼付)	
毒虫(118)、毒魚刺傷(120) 棘刺(とげ)(116)	アムモニア水 (散布)	稀ヨードチンキ (滴下)	硼酸軟膏 (貼付)	
火傷(147)、凍傷(148) 腐蝕傷(148)、漆まけ、 日焼け	亜鉛華オレフ油 (散布)	硼酸軟膏 (貼付) 稀ヨードチンキ (散布・凍傷)	デルマトール (散布) 2%硼酸水 (湿布)	
丹毒(126)、癰(129)、疔 (129)、瘰癧(128)、蜂窩 織炎(122)、膿症(121) 一般腫傷(121)	イヒチオール (散布) ビツク膏 (貼付)	稀ヨードチンキ (散布) 2%マーキユロ クローム液 (散布)	0.1%乳酸エトオ キシチアミノア クリチン液 (散布)	
痔疾、肛門裂傷、 痔核出血(226)、痔瘻	タンニン酸 ロート坐薬 (就床時1個挿入) 硼酸軟膏 (患部散布)	グリセリン (洗腸) 1%クレゾール 石鹼液 (患部洗滌)	デルマトール10 ワセリン 90 (散布)	
打撲傷(うちきづ)、 挫傷(くぢき)(150) 脱臼(151)、骨折(160) 關節捻挫(160)	イヒチオール (散布) 2%錯酸鉛液 (湿布)	稀ヨードチンキ (散布) アルコール (湿布)	2%硼酸水 (シツプ)	
神経痛、腰痛、レウマチス (267, 324) 肩凝、疝氣	アスピリン錠3 サリチル酸錠3 一日量3回分服食後	稀ヨードチンキ (患部散布) イヒチオール (患部散布)	アミノピリン錠2 バルビタール錠1 (1回頓服・神経痛)	

外科疾患 (十五章一十章参照)

外科

病名と治療薬品一覧

病名の次の数字は日本船舶  
検査員の頁。  
薬品名の次の数字は互換(錠  
剤の場合は個数)を示す。

病名	治療薬品名			
皮膚科疾患 (五十一章参照)	濕疹(くさ)(340)、癩爛(たさ れ)、汗疹(あせも)(341)、水痘 (水くさ)(340・260)、蕁麻疹 (340)、帯状疱疹(341)	{ タールバスタ (散布) 硼酸軟膏 (散布)	{ デルマトール (散布) 亜鉛華散粉 (散布)	{ デルマトール サリチル酸 2 白色ワセリン88 (散布)
	頭癬(たむし)(211)、陰囊疹 (いんきん)、白癬(しらくも)、汗疱 (みづむし)、白癬風(しろなま ず)、輪癬(ぜにがさ)、痒癬症 (かゆみ)、疹癬(339)	{ サリチル酸 アルコール 稀ヨードチンキ (散布)	{ タールバスタ デルマトール5 硼酸軟膏 45 (散布)	{ 2%マーキユロ クローム液 1%乳酸エトオ キシチアミノア クリチン液 (散布)
	面疱(にきび)、皮脂漏(ふきでもの) 化膿症(うみ)、一般腫瘍(でき もの)、疣贅(いぼ)、魚の目	{ ビツク膏(貼付) (面疱 疣贅 魚の目)	{ 硼酸軟膏 (貼付)	{ デルマトール (散布)
消毒	手術用器具・繃帯材料 創面、患部の消毒	{ 50%アルコール (手掌・器具)	過酸化水素水 (創面)	{ 稀ヨードチンキ (創面)
毒	手掌、器具、吐瀉物等の 消毒	{ 3%クレゾール 石鹼液 (手掌・吐瀉物)	熱湯 (器具・食器)	{ 手術用器具 繃帯材料 (三十分間煮沸消 毒す)
	布類、衣類、 寝具、敷物、畳、 革類、毛皮、漆器、ゴム類、 建具、家具、柱、床板、	{ 50%アルコールに 浸す 両面日光消毒 (六時間宛) 50%アルコールに 浸す 3%クレゾール石 鹼液を噴霧す	{ 3%クレゾール石 鹼液を温る程度に 噴霧す 同上 50%アルコールを 浸した布でふく 同上	{ 日光消毒 (六時間) 同上 同上
眼疾患	眼の異物(342)、眼瞼縁 炎(343)、膿漏眼(343)、 トラホーム(345)、夜盲 症(345)、晝盲症(345)	{ 2%硼酸水 (洗滌) 0.5%硫酸亜鉛水 (朝夕二回点眼)	{ 1%硝酸銀液 点眼(膿漏眼) 3%硝酸銀ワセリン (眼瞼縁炎塗擦)	(五十二章参照)
耳鼻疾患	耳の異物(346)、耳の腫 物(246)、中耳炎(348)、 鼻カタル	{ オキシフル又は 2%硼酸水又は 1%乳酸エトオ キシチアミノア クリチン液 (ガーゼに浸し耳 内に挿入)	{ アスピリン錠1 (頓服・耳の痛み)	{ 2%硼酸水 (鼻カタル洗滌) (五十三章参照)



内用薬

常備薬品用途一覽

(甲)

無線 番號	品名	性 状	用 途	用 量・用 法
1	アスピリン錠	主薬アスピリン0.5瓦を含有する白色の錠劑。微に酸味を有す。	解熱、發汗、鎮痛劑として風邪、感冒による發熱、神経痛、ロイマチス、齒痛等に用ふ。	1回1-2錠頓服 又は1日3錠 3回分服。
2	アミノピリン錠	主薬アミノピリン0.1瓦を含有する白色の錠劑。微に苦味を有す。	解熱劑として風邪、感冒、結核、肋膜炎等に用ふ。	1日3-6錠 毎食後分服。
3	安息香酸ソーダ カフェイン (製薬)	白色結晶性の粉末、或は顆粒状塊にして微に甘き苦味を有す。水、アルコールに溶解し易し。	強心劑として各種の心臟疾患、心悸亢進、發熱による心臟衰弱に用ふ。	1回0.2-0.5瓦頓服又は1日0.5-1.5瓦3回分服 (極量)1回1瓦 1日3瓦
4	鹽酸キニーネ錠	主薬鹽酸キニーネ0.1瓦を含有する白色の錠劑。苦味を有す。	解熱劑として、マラリヤ、デング熱及び一般發熱に用ふ。	マラリヤに1日2-3回5錠宛内服。豫防には隔日に5-10錠宛内服一般解熱には1日量3-9錠3回分服。
5	稀 鹽 酸	無色澄明の液にして比重1.05 10%の鹽化水素を含有す。酸味あり。	胃酸缺乏、胃の異狀酸酵、下痢、食慾不振等に用ふ。	1日 1-2ccを100ccの水に和して3回分服。
6	規 鐵 丸	1錠中鹽酸キニーネ及還元鐵各0.05瓦を含有す。苦味ある黒色の丸子。	強壯劑として萎黃病、貧血に用ふ。	1日 3粒 毎食後分服。
7	苦味チンキ	黄褐色芳香性の液にして苦味あり、アルコール約10%を含む。	健胃劑として又、胃の機能に害する薬品に配伍して之を豫防せんが爲に用ふ。	1日量2.0-5.0ccを數回に分ちて内服。
8	健 胃 錠	1錠中重曹0.25瓦當藥(センプリ)0.01瓦を含有する。淡褐色の錠劑。	健胃劑、制酸劑、食欲催進劑として用ふ。	1日量 6-9錠 毎食後分服。

内用薬

常備薬品用途一覽

(甲)

無線 番號	品名	性 状	用 途	用 量・用 法
9	醋酸カリ液	34%の純醋酸カリを含有する無色澄明液鹹き味を有す。	利尿劑として痛風、尿酸結石、ロイマチス等に用ふ。	1日量10-15ccを合劑として3回分服。
10	サリチル酸 ソーダ錠 (遮光貯藏)	1錠中サリチル酸ソーダ0.25瓦を含有する白色の錠劑。微に甘き味を有す。	解熱、鎮痛劑として急性關節ロイマチス、尿酸性、關節炎、神経痛、肋膜炎、膽石症、黃疸等に用ふ。	1日量 6-12錠 3回分服。
11	サントニン錠 (遮光貯藏)	1錠中サントニン0.02瓦を含有す。白色の錠劑	驅虫劑として蛔虫、蟯虫其他の寄生虫の驅除に用ふ。	1日1回2-3錠を空腹時頓服 2日間連用。
12	次硝酸蒼鉛錠	1錠中次硝酸蒼鉛0.25瓦を含有す。白色の錠劑	腸收斂、止瀉劑として腸カタル、食アタリ、寝冷え、其他の腸疾患に基く下痢に用ふ。	1日 3-6錠 3回分服又は 1-4錠頓服
13	重炭酸ソーダ	白色結晶性の粉末油鹹味を有し、水溶液は弱アルカリ反應を呈す。	制酸並に胃粘液の溶解劑として各種の胃腸疾患に内服し、含嗽又は吸入劑として外用す。	内用-1日3.0-6.0瓦 外用-2-5%液
14	シ ロ ッ プ	65%の白糖を含有する無色濃稠液。	矯味藥として種々の水劑の矯味に用ふ。	1日量10-30cc
15	セネガシロップ	淡黄色、澄明の濃厚液。セネガ根の有効成分を含有す。	祛痰藥として各種の咳嗽に用ふ。	1日量5.0-10.0ccを他の祛痰、鎮咳劑と配伍して用ふ。
16	臓器止 血成分製劑 { メゾラン錠 トロンボゲン錠 フィプロ元錠 リユナリン錠	肺臓及脾臓組織中の血液凝固成分。白色の錠劑	止血劑として肺、胃腸、腎臓其他の内出血及一般外傷による外出血に用ふ。	1日 3-6錠 毎食後 2-3時間 に分服。

内用薬

常備薬品用途一覽

(甲)

番號 無線	品名	性状	用途	用法・用量
17	炭酸グアヤコール丸	1錠中炭酸グアヤコール0.05瓦を含有する白色丸子。	肺結核、肋膜炎、腹膜炎等に用ふ。	1日量9丸より漸時増量し1日量90丸に至る。
18	チアスターゼ (密栓貯蔵)	淡黄色、水に易溶性の粉末。	澱粉の消化剤として消化不良、其他の胃腸疾患に用ふ。	1日量0.3-1.0瓦 毎食後直ちに分服す。
19	薄荷水	0.2%の薄荷油を含有する澄明の液にして特異の香料を有す。	矯味、矯臭剤として清涼鎮吐の目的に内用し、含嗽、吸入等に外用す。	内用 1日5-10cc 外用-10-20%液。
20	バルピタール錠 (劇薬)	1錠中バルピタール0.1瓦を含有する錠剤。	催眠薬として不眠症、神経衰弱、癲癇、船暈、等に用ふ。	1回3-5錠就床時頓服 1週間以上連用すべからず。 (極量)1回5錠1日10錠。
21	ビタミンB製劑 アベリー錠 オリザニン錠 パノトリン錠 ベリベロール錠	淡黄色、佳快の味を有する錠剤。	脚氣及栄養障害治療剤として各種脚氣、食欲不振、便秘、栄養不良等に用ふ。	1日量 3-9錠 3回毎食後分服。
22	ヒマシ油	淡黄色澄明の油。	下劑として各種の胃腸疾患、便秘に用ふ。	1日 25-30瓦 頓服。
23	白檀油 (又はコバイバルサム)	特異の芳香を有する油。	治淋劑として急性慢性淋疾、攝護腺炎、尿道炎、膀胱カタル等に用ふ。	1日量3.0-6.0瓦 カプセル入となし毎食後に分服す。
24	ブロムカリ	白色骰子型の結晶 特異の鹹味を有す。 水に溶解し易し。	鎮靜劑として神経衰弱、ヒステリー、不眠症等に、鎮痙劑として癲癇、痙攣諸症に用ふ。	1日量1.5-3.0瓦 3回毎食後分服。

内用薬

常備薬品用途一覽

(甲)

無線 番號	品名	性状	用途	用法・用量
25	ブロムワレリル尿素錠 プロバリン錠 カルモチン錠 ソムナール錠	1錠中0.1瓦のブロムワレリル尿素を含有す。無味無臭白色の錠剤。	催眠、鎮靜劑として神経衰弱、不眠症、興奮、夜叫症、頭痛、頭重、船暈等に用ふ。	催眠劑として-1回 5-10錠就床前頓服、鎮靜劑として、1日量 3-9錠1日3回分服。
26	ホミカエキス十倍末 (劇薬)	10%のホミカエキスを含有する淡褐色、強苦味を有する粉末。	健胃苦味藥として、各種の胃腸疾患に、末梢神経興奮劑として遺尿、膀胱麻酔等に用ふ。	1日量0.3-1.0瓦 3回分服。 (極量)1回量0.5 1日量1.0
27	マグネシア (煅性マグネシア)	白色細微の輕き粉末にして水に溶解せず。	制酸劑として胃腸疾患に、解毒劑として酸類、砒素、鉛等の中毒に用ふ。緩下劑として便秘症に。	制酸劑として1日量 0.5-1.0瓦 解毒劑として1回量 2.0-6.0瓦 緩下劑として1回量 2.0-3.0瓦
28	ヨードカリ錠 (劇薬) (遮光貯蔵)	一錠中ヨードカリ0.25瓦を含有す。水に溶解し易く特異の鹹味を有す。	變質藥として黴毒、腺症質、肋膜炎、神経性喘息等に用ふ。	1日量 2-4錠 3回分服。
29	硫酸マグネシア (瀉利鹽)	白色稜柱状の小結晶にして、水に溶解し易く、味は苦鹹。	下劑として便秘、常習性便秘、脚氣等に用ふ。	1日量 15-60瓦 3回分服。
30	燐酸コデイン錠 (劇薬)	1錠中0.01瓦の燐酸コデインを含有す。	鎮痛鎮痙劑として胃痙攣、腹痛、頑固な咳嗽、胃潰瘍、疝痛等に用ふ。	1回量2-5錠頓服 又は1日量6-9錠 3回分服。 (極量)1回量10錠 1日量30錠
31	ロカイヤラッパ丸	ロカイヤラッパ石鹼を含有する黑色の丸子。	瀉下藥として各種便秘症に用ふ。	1回量2-3丸頓服。
32	ロートエキス十倍末 (劇薬)	10%のロートエキスを含有する淡褐色の粉末。苦味を有す。	鎮痛、鎮痙、分泌抑制劑として胃痙攣、腹痛、胃酸過多症、喘息等に用ふ。	1日量0.1-0.3瓦 3回分服 1回量 0.3瓦 頓服 (極量)1回量0.5瓦 1日量1.5瓦

無線 番號	品 名	性 状	用 途	用法・用量
33	亞鉛華オレフ油	亞鉛華及オレフ油等分より成る白色の泥膏。	火傷、潰瘍、濕疹等に用ふ。	1日 1-2回 患部塗布
34	亞鉛華ゴム絆創膏	亞鉛華23%を含有するゴム絆創膏、灰白色、粘着性	貼付せる綿花、ガーゼ、リント布等の固定に用ふ。	貼 付
35	亞鉛華澱粉	亞鉛華及澱粉等分より成る白色の粉末。	乾燥收斂性の散布劑として、潰瘍、糜爛、濕疹、表皮剝離部、汗疹等に用ふ。	患部撒布
36	アルコール (85-87%) (火氣注意)	特異の香氣ある無色揮發性の液體。	消毒劑として、創面、患部、手掌、器具等の消毒に用ふ。	其儘或は同量の水にて薄めて用ふ。
37	アンモニア水 (10%)	無色透明の液にして特異の竄透性臭氣を有し、強アルカリ性反應を呈す。	毒虫、毒蛇等の咬傷等に塗布し失神、昏倒の際興奮の目的に嗅入せしむ。	患部塗布、又は瓶口より吸引せしむ。
38	イヒチオールスルホン酸アンモン (イヒチオール)	黒褐色、特異の焦臭を有する濃稠液。	消炎、鎮痛劑としてロイマチス、關節炎、疼痛、火傷、凍傷、打撲傷等に用ふ。	原液の儘、或はエーテルアルコール等分の合液に20-50%の割合に溶して患部へ塗布す。
39	乳酸エトオキシチアミノアクリチン ヘクサリン リゾノール リマオン	黄色の粉末、約15倍の水に溶解す。	表面及深部の殺菌、消毒劑として、瘡傷面、潰瘍面其他の消毒に用ふ。	外傷-千倍液 皮膚疾患-五百倍液 淋疾洗滌-千倍液
40	鹽素酸カリ (劇薬)	光澤ある無色小板状結晶。或は白色結晶性の粉末、十六倍の冷水に溶解す。	微弱な防腐作用を有し、口内炎、驚口瘡、亞布答昇汞性口腔炎、單純性口腔炎に用ふ。	3-5%水溶液を含嗽に用ふ。 (内用せず)

無線 番號	品 名	性 状	用 途	用法・用量
41	オレフ油	淡黄色、僅に臭氣を有する油液。	火傷、潰瘍、等の塗布劑として種々の薬品に混和して用ひ、或は軟膏の製造に用ふ。	亞鉛華(30-50%) サリチル酸(1-5%) 乳酸エトオキシアクリチン(0.2-2%) 等を混和して用ふ。
42	過酸化水素水 {オキシビエノ オキシフル (遮光貯蔵)	3%の過酸化水素を含有する無色澄明液、徐々に分解して酸素を發生す。此際強き殺菌力を發揮す。	殺菌消毒、制臭劑として、創傷、潰瘍、咽喉の炎症、齒齦膿瘍、口臭等に用ふ。	原液又は3-10% 溶液を用ふ。
43	過マンガン酸カリ (劇薬) (遮光貯蔵)	金屬様の光澤を有する紫黑色、稜柱状の結晶にして十六倍の水に溶解し紫紅色を呈す。	防腐制臭劑として、尿管、膿、悪臭性潰瘍面の洗滌に、或はモヒ、チアン、磷等の中毒に胃洗滌料として用ふ。	0.05-0.5%液を用ふ。
44	稀ヨードチンキ	3.2%のヨードを含有する暗赤色の液。	殺菌、消毒、消炎劑として、外傷、一般皮膚病、手術部位の消毒、打撲傷、關節炎、淋巴管炎等の消炎に用ふ。	患部塗布 1日 1-3回
45	グリセリン	無色、無臭、シロツブ様の濃稠液、甘味を有し、水、アルコール、エーテル等に任意の割合に溶解す。	皮膚の乾燥、龜裂を防ぐ目的に皮膚、口唇等に塗布し、排便を促す目的に浣腸料とす。	荒れ止めに-原液又は20-50%液塗布、浣腸に-50%液20-50cc注入。
46	クレオソート (劇薬)	灼くが如き味と竄透性の煙臭を有する淡黄色の油状液。	肺結核、急性腸カタル等に内用し、齒痛に外用す。	内用-1日0.03より漸時増量0.1に至る。膠囊入又は丸として與ふ。 外用-綿球に浸し齶齒に挿入す。
47	クレゾール石鹼液 又は (ホルマリン石鹼液)	特異の臭氣を有する赤褐色、濃稠液、水、アルコールに殆んど澄明に溶解す。	消毒劑として①排泄物、便所、痰壺②器械手③創傷面の消毒に用ふ。	①-5%液 ②-3%液 ③-0.5%液
48	醋酸鉛 (鉛毒)(劇薬)	白色結晶性の塊にして、微に醋酸臭を有し甘く收斂性の味を有す。水には僅に混濁して溶解す。	冷罨法料として、打撲傷、淋巴腺腫、關節炎、畢丸炎、其他腫洗滌、點眼料に用ふ。	冷罨法1-2%液 洗滌料0.2-0.6%液 點眼料0.02-0.1%液

外用薬

常備薬品用途一覽

(甲)

無線 番號	品名	性 状	用 途	用法・用量
49	サリチル酸 アルコール (5%)	アルコールに5%の サリチル酸を溶解せ るものなり。	皮膚薬として、 インキン、タムシ、白 癬、苔痒、水虫等の治 療に用ふ。	1日 1-2 回患部 塗布(或程度の刺戟 性あり)。
50	硝 酸 銀 (劇 薬)  (遮光貯蔵)	無色板状の結晶にし て水によく溶解す。	防腐、腐蝕作用を有 し。口腔又は咽喉の カタル性疾患(口内炎、 アブト等)に塗布し、 結膜炎、膿漏眼、トラ ホーム等に点眼す。	塗布-1-2%液 点眼-0.05-1%液
51	蒸 溜 水		内外用薬品の調製に 用ふ。	
52	消毒クリーム (花柳病豫防劑)  {エーセー シクロ	白色のクリーム	事前又は事後に局所 へ塗布し、花柳病を 豫防す。	1回 1-2 瓦局所 へ塗布す。 (可成事前が有效)
53	水 銀 軟 膏	灰白色の軟膏、水銀 33%を含有す。	①瘰癧に對する 塗擦劑として ②淋巴腺炎に對する 塗擦劑として ③毛虱、陰毛虱等の 驅除劑として用ふ。	①-1日3-5瓦を 左右上膊へ交互に ②-1日1-2瓦を 患部上皮へ ③-1日3-10瓦を 毛髮根部へ
54	タールバスタ	木タール、硫黄、亞鉛 華を含有する褐色の 軟膏、特異の臭氣を 有す。	皮膚薬として 濕疹、乾癬、疥癬、 頑癬、皮脂漏等に用 ふ。	1日 1-2 回 患部塗布
55	タンニン酸 ロート坐薬	1個中ロートエキス 0.05瓦及タンニン酸 を含有する淡褐色の 坐薬。	鎮痛、止血作薬を有 し、各種の痔疾患、 (切痔、イボ痔、脱肛) 痔瘻等に用ふ。	1日1個挿入
56	デルマトール	黄色無味無臭の粉末。	創面、潰瘍面等の撒 布劑として火傷、濕 疹等に對する軟膏と して腸カタル、赤痢等 に止瀉劑として用ふ。	外用-其儘又は撒布 劑(10-20%) 軟膏(10-20%)として 内用-1日量0.6- 1.5瓦3回分服

外用薬

常備薬品用途一覽

(甲)

無線 番號	品名	性 状	用 途	用法・用量
57	燃料用 アルコール  (火氣注意)	骨油其他を混和して 變性せるアルコール。	アルコールランプ、 吸入用其他の燃料と す。	
58	白色ワセリン	白色或は類白色、半 透明の軟膏様油。	皮膚の荒れ、火傷、 或は潰瘍面へ塗布し 各種軟膏の原料とし て用ふ。	其儘患部塗布、或は 亞鉛華、デルマトール 等を混和し各種の皮 膚病に塗布す。
59	ピ ッ ク 膏	サリチル酸1%を含 有する淡黄色の硬膏。	皮膚角質の軟化劑と して、魚の目、胼胝、 癬瘡、フルンケル 等に用ふる。	患部へ貼付
60	硼 酸 錠 (2.0)	1錠中硼酸2瓦を含 有する錠劑、温湯 100ccに溶せば2% 溶液を得。	防腐殺菌劑として ①眼、口、咽喉 ②創傷、潰瘍 ③火傷、凍傷、癰爛 に用ふ。	①-1-2%液 ②-3-5%液 ③-2-10% 軟膏を用ふ。
61	硼 酸 軟 膏	硼酸10%を含有す る淡褐色軟膏。	防腐性軟膏として、 火傷、凍傷、潰瘍、癰 爛、創傷、擦過傷等に 外用す。	患部塗布又は貼付
62	ハロゲンオキシメルクリ フルオレスセイ ンナトリウム (マキクロロム第一) (パンクロロム高行) (劇薬)(遮光貯蔵)	赤褐色光輝ある小結 晶にして、水に深紅 色を呈して溶解す。 無刺戟性なり。	殺菌消毒劑として、 ヨードチンキの代用 に、一般創傷、潰瘍面 の消毒及洗滌に用ふ。	創傷面塗布1-2%液 洗滌 0.5-1%液 (2%以下の溶液は普通薬)
63	ヨードホルム (劇 薬)  (遮光貯蔵)	光輝ある黄色結晶葉 片にして、特異の臭 氣を有す。	分泌を制限する防腐 薬として、一般創面、 軟性下疳潰瘍面、微 毒疹に用ふ。	其儘を患部へ撒布、 或は5-10%軟膏 として貼付
64	硫 酸 亞 鉛 水 (0.5%)	硫酸亞鉛0.5%を溶 解せる無色澄明液。	收斂性防腐劑として、 種々の眼疾患に点眼 す。	1日1-3回点眼

内用薬

常備薬品用途一覽

(乙)

無線 番號	品名	性状	用途	用法・用量
1	アスピリン錠	主薬アスピリン0.5瓦を含有する白色の錠剤。微に酸味を有す。	解熱、發汗、鎮痛劑として風邪、感冒による發熱、神経痛、ロイマチス、齒痛等に用ふ。	1回 1-2錠頓服 又は 1日3錠 3回分服
2	鹽酸キニーネ錠	主薬鹽酸キニーネ0.1瓦を含有する白色の錠剤 苦味を有す。	解熱劑としてマラリヤ、デング熱及び一般發熱に用ふ。	マラリヤに1日2-3回5錠宛内服 豫防には隔日に5-10錠宛内服 一般解熱には1日量3-10錠3回分服
3	健胃錠	1錠中重曹0.25瓦 當藥(センブリ)0.01瓦を含有する淡褐色の錠剤。	健胃劑、制酸劑、食欲催進劑として用ふ。	1日量 6-9錠 毎食後分服
4	コロゲイン		鎮痛藥として胃痙攣、腹痛に用ふ。	1回 10-20滴 冷水に和して頓服す。
5	次硝酸蒼鉛錠	1錠中次硝酸蒼鉛0.25瓦を含有す。	腸收斂、止瀉劑として腸カタル、食アタリ、寒冷え、其他の腸疾患に基く下痢に用ふ。	1日 3-6錠 3回分服又は 1-4錠頓服
6	重炭酸ソーダ	白色結晶性の粉末 油鹹味を有し、水溶液は弱アルカリ反應を呈す。	制酸並に胃粘液の溶解劑として各種の胃腸疾患に内服し、含嗽又は吸入劑として外用す。	内用-1日 3.0-6.0瓦 外用-2-5%液
7	ビタミンB製劑 アベリー錠 オリザニン錠 パラメトリン錠 ビーフル錠	淡黄色、佳快の味を有する錠剤。	脚氣及栄養障害治療劑として各種脚氣、食欲不振、便秘、栄養不良等に用ふ。	1日量 3-18錠 3回毎食後 分服
8	ヒマシ油	淡黄色澄明の油。	下劑として各種の胃腸疾患、便秘に用ふ。	1日 25-30瓦 頓服

内用薬

常備薬品用途一覽

(乙)

無線 番號	品名	性状	用途	用法・用量
9	白檀油 又は コバイバルサム	特異の芳香を有する油。	治淋劑として急性慢性淋疾、攝護腺炎、尿道炎、膀胱カタル等に用ふ。	1日量3.0-6.0瓦 カプセル入となし毎食後に分服す。
10	葡萄酒		興奮性飲料として失心、虚脱及諸種の衰弱の場合に用ふ。	1回 30-100 cc
11	プロムワレリル尿素錠 プロバリン錠 カルモチン錠 ソムナール錠	1錠中0.1瓦のプロムワレリル尿素を含有す。無味無臭白色の錠剤。	催眠、鎮靜劑として神經衰弱、不眠症、興奮、夜叫症、頭痛、頭重、船暈等に用ふ。	催眠劑として-1回 5-10錠就床前頓服 鎮靜劑として-1日量 3-9錠 1日3回分服
12	硫酸マグネシア(硫苦)	白色稜柱狀の小結晶にして水に溶解し易く、味は苦鹹。	下劑として便秘、常習性便秘、脚氣等に用ふ。	1日量 15-60瓦 3回分服
13	磷酸コデイン錠(劇薬)	1錠中0.01瓦の磷酸コデインを含有す。	鎮痛鎮痙劑として胃痙攣、腹痛、頑固な咳嗽、胃潰瘍、疝痛等に用ふ。	1回量 2-5錠頓服 又は1日量6-9錠 3回分服 極量 1回量 10錠 1日量 30錠
14	ワレリルアセチルフェノールフタレイン錠 エバール錠 ラキナトール錠 アプフリン錠	1錠中主薬0.2瓦を含有する白色の錠剤。無味、無臭。	緩下劑として便秘、常習便秘、腸カタル或は蛔虫驅除の際に便通を促す際に用ふ。	1日量 3-9錠3回 空腹時分服、或は 1回量 1-5錠頓服 6-12時間後通便す。

## 外用薬

## 常備薬品用途一覽

(乙)

無線 番號	品名	性状	用途	用法・用量
15	亞鉛華オレフ油	亞鉛、及オレフ油等分より成る白色の泥膏。	火傷、潰瘍、濕疹等に用ふ。	1日 1-2回 患部塗布
16	亞鉛華ゴム 絆創膏		貼付せる綿花、ガーゼ、リント布等の固定に用ふ。	貼付
17	アルコール (85-87%)  (火氣注意)	特異の香氣ある無色揮発性の液體。	消毒劑として創面、患部、手掌、器具等の消毒に用ふ。	其儘或は同量の水にて薄めて用ふ。
18	アンモニア水 (10%)	無色澄明の液にして特異の竄透性臭氣を有し強アルカリ性反應を呈す。	毒虫、毒蛇等の咬傷等に塗布し失神、昏倒の際興奮の目的に嗅入せしむ。	患部塗布、又は瓶口より吸引せしむ。
19	オレフ油	淡黄色、僅に臭氣を有する油液	火傷、潰瘍、等の塗布劑として種々の藥品に混和して用ひ、或は軟膏の製造に用ふ。	亞鉛華(30-50%) サリチル酸(1-5%) 乳酸エトオキシアクリチン(0.2-2%) 等を混和して用ふ。
20	過酸化水素水  (遮光貯藏)	3%の過酸化水素を含有する無色澄明液徐々に分解して酸素を發生す、此際強き殺菌力を發揮す。	殺菌消毒、制臭劑として、創傷、潰瘍、咽喉の炎症、齒齦膿瘍口臭等に用ふ。	原液又は3-10% 溶液を用ふ。
21	稀ヨードチンキ	3.2%のヨードを含有する暗赤色の液	殺菌、消毒、消炎劑として外傷、一般皮膚病、手術部位の消毒、打撲傷、關節炎、淋巴管炎等の消炎に用ふ。	患部塗布  1日 1-3回
22	グリセリン	無色、無臭、シロップ様の濃稠液、甘味を有し、水、アルコールエーテル等に任意の割合に溶解す。	皮膚の乾燥、龜裂を防ぐ目的に皮膚、口唇等に塗布し排便を促す目的に浣腸料とす。	荒れ止めに-原液又は20-50%液塗布 浣腸に-50%液 20-50cc注入

## 外用薬

## 常備薬品用途一覽

(乙)

無線 番號	品名	性状	用途	用法・用量
23	クレオソート (劇薬)	灼くが如き味と竄透性の煙臭を有する淡黄色の油狀液。	肺結核、急性腸カタル等に内用し、齒痛に外用す。	内用-1日0.03より漸時増量0.1に至る。膠囊入又は丸として與ふ。 外用-綿球に浸し齧齒に挿入す。
24	クレゾール 石鹼液	特異の臭氣を有する赤褐色、濃稠液、水、アルコールに殆んど澄明に溶解す。	消毒劑として①排泄物、便所、痰壺②器械手③創傷面の消毒に用ふ。	①-5%液 ②-3%液 ③-0.5%液
25	サリチル酸 アルコール (5%)	アルコールに5%のサリチル酸を溶解せるものなり。	皮膚藥としてインキン、タムシ、白癬、苔痒、水虫等の治療に用ふ。	1日 1-2回患部塗布(或程度の刺激性あり)
26	水銀軟膏	灰白色の軟膏、水銀33%を含有す。	①瘰癧に對する塗擦劑として ②淋巴腺炎に對する塗擦劑として ③毛虱、陰毛虱等の驅除劑として用ふ。	①-1日3-5瓦を左右上膊へ交互に ②-1日1-2瓦を患部上皮へ ③-1日3-10瓦を毛髮根部へ
27	硼酸錠	1錠中硼酸2瓦を含有する錠劑、温湯に溶せば2%溶液を得。	防腐殺菌劑として①眼、口、咽喉②創傷、潰瘍③火傷、凍傷、糜爛に用ふ。	①-1-2%液 ②-3-5%液 ③-2-10%軟膏を用ふ。
28	硼酸軟膏	硼酸10%を含有する淡褐色軟膏。	防腐性軟膏として火傷、凍傷、潰瘍、糜爛、創傷、擦過傷等に外用す。	患部塗布又は貼付
29	ビツク膏	サリチル酸1%を含有する淡黄色の硬膏。	皮膚角質の軟化劑として、魚の目、胼胝、瘡癤、フルンケル等に用ふる。	患部へ貼付
30	ヨードホルム (劇薬)  (遮光貯藏)	光輝ある黄色結晶葉片にして、特異の臭氣を有す。	分泌を制限する防腐藥として、一般創面、軟性下疳潰瘍面、黴毒疹に用ふ。	其儘を患部へ撒布 或は5-0%軟膏として貼付

外用薬

常備薬品用途一覽

(乙)

無線 番號	品名	性 状	用 途	用 量・用 法
31	硫酸亞鉛水 (0.5%)	硫酸亞鉛0.5%を溶 解せる無色澄明液。	收斂性防腐劑として 種々の眼疾患に點眼 す。	1日1-3回點眼

遞 信 省

日本船舶醫療便覽

病 名 索 引

(五十音順)

日本船舶医療便覧病名索引

ア	頁
足関節の脱臼	158
あせも(汗疹)	341
阿片中毒	211
アミーバ赤痢	308
アルカリ中毒	207
アルコール中毒	210
イ井	
胃潰瘍	233
胃痛	233
胃病	230
インフルエンザ	266
ウ	
譫妄	489
エエ	
栄養関係の病	317
壊疽	127
オヲ	
黄疽	486
嘔吐	488
温帯地の急性傳染病	250
カ	
芥癬(ひぜん)	339
蛔虫	236
開放骨折	166
貝類中毒	214
外出血	103
外聽道の異物	346
外聽道の腫物	347
下顎骨折	169
咯血	478
假死	479
下肢の腫れ	480
下腿の骨折	185
カタル性黄疸	238
脚氣	321
火夫瘧疾	198
眼瞼織炎	343
關節捻挫(タジキ)	159
關節の創傷	115
頑癬	314
肝臓病	238
嵌頓ヘルニア	242
眼病	341
キ	
龜頭包皮灸	325
狂犬病	316
狭心症	224
胸痛	480
胸部の創傷	113
急性胃カタル	231
急性關節レウマチス	267
急性氣管支炎	217

日本船舶医療便覧病名索引

ク	頁	サ	頁
急性筋肉レウマチス	324	骨盤の骨折	180
急性喉頭炎	217	コレラ	279
急性腎臓炎	245	昏睡	484
急性腹膜炎	244	シ	
急性扁桃腺炎	229	再歸性チフス(回歸熱)	306
筋肉注射	134	細菌性赤痢	310
ク		鎖骨の骨折	173
くさ(濕疹)	340	蠍の整傷	119
踝の骨折	186	挫傷	150
回歸熱(再歸性チフス)	306	條虫	236
壊血病	320	酸化炭素中毒	207
潰瘍	127	酸中毒	207
ケ		シ	
瘧疾	481	痔核	226
蟻虫	237	趾骨の骨折	187
外科手術	130	下顎關節の脱臼	158
血尿	250	齒痛	228
下痢	234, 492	膝蓋骨の骨折	183
肩胛關節の脱臼	152	濕疹(くさ)	340
コ		嗜眠性腦炎	266
口腔炎症と潰瘍	229	シモヤケ(凍瘡)	149
黄熱	286	出血	102
興奮症	351	重症黄疸	238
呼吸困難	483	十二指腸虫	237
國際的豫防處置を必要とする傳染病	271	消化器疾患	228
黒水熱(血色素尿性膽汁熱)	303	消化不良	232
骨折	160	猩紅熱	257
		上膊の骨折	174



日本船舶医療便覧病名索引

静脈炎	227
静脈瘤	225
食傷	231
臁骨の骨折	187
シヨック	196
心悸昂進	472
人工呼吸	189
滲出性心囊炎	225
人事不省	195
腎石病(腎石痛)	248
心臓病	223
心臓部の痛み	471
蕁麻疹	340
深部麻酔	134
<b>ス</b>	
睡眠病	304
スナノミ(サツタ蚤)	314
<b>セ</b>	
青酸中毒	207
精神異常	349
性病	325
背椎骨折	170
赤痢	308
痛	129
痛の切開	146
潜水病	202
前膊中部の骨折	177

**ソ**

創傷	109
創傷の縫合	139
躁暴症	351
卒中	203
卒倒	196

**タ**

帯状疱疹	341
大腿骨の骨折	181
脱臼	151
脱腸	240
多尿	490
タムシ(頭癬)	314
膽石症	239
單純骨折	164
丹毒	126

**チ**

窒息假死	188
腸出血	471
腸チフス	261
腸の寄生虫	236
中耳炎	348
中毒	205
虫様突起炎	244
晝盲症	345
チフテリア	268

日本船舶医療便覧病名索引

頭蓋骨折	167
頭痛	492
爪の下の棘	116
釣鉤の創傷	116

**テ**

溺者に対する應急手當	192
溺水	190
癩痢	358
デング熱	304
電撃症	201
傳染病	250, 271, 299
天然痘	294

**ト**

腕骨下端の骨折	177
凍傷と凍瘡	148
糖尿病	317
頭部の創傷	112
東方腫	313
動脈出血	105
毒虫の螫傷	118
トラホーム	315

**ナ**

内出血	109
鉛中毒	209
軟性下疳	331

**ニ**

ニコチン中毒	212
日射病	198
尿毒症	247
妊娠	363

**ネ**

熱射病	198
熱帯地傳染病	299
熱帯覆盆子腫	312

**ノ**

腦溢血	203
腦震盪	198
膿瘍	121
膿瘍の切開	142
膿漏眼	343

**ハ**

肺炎	218
肺結核	219
敗血應	124
微毒	332
ハシカ(麻疹)	259
破傷風	125
蜂の螫傷	118
發疹性熱病	255
發疹チフス	292
劔血	108

日本船舶医療便覧病名索引

バラチフス……………<sup>頁</sup>261

ヒ

皮下骨折……………164  
 皮下注射……………134  
 ヒゼン(疥癬)……………339  
 砒素中毒……………208  
 膝関節の水腫……………160  
 膝関節の脱臼……………158  
 肘関節の脱臼……………155  
 肘の骨折……………176  
 泌尿器の病……………245  
 皮膚病……………325  
 皮膚麻酔……………133  
 瘰癧……………128  
 瘰癧の切開……………143  
 貧血……………228

フ

風疹……………259  
 複雑骨折……………166  
 腹痛……………473  
 腹部の創傷……………114  
 腹部の膨張……………477  
 腹部の病……………240  
 腹壁ヘルニヤ……………242  
 船暈……………204  
 腐敗食物中毒……………213  
 フランベシア……………312  
 分娩……………366

ヘ

ベスト……………<sup>頁</sup>272  
 臍ヘルニヤ……………242  
 蛇の咬傷……………117  
 ヘルニヤ(脱腸)……………240  
 便秘……………235

ホ

蜂窠織炎……………122  
 膀胱炎(膀胱カタル)……………249  
 膀胱カテーテル……………136  
 痘瘡……………294  
 拇指の脱臼……………156

マ

麻疹(ハシカ)……………259  
 股関節の脱臼……………156  
 マラリア……………299  
 マルタ熱……………307  
 慢性アルコール中毒に依る精神障害……………359  
 慢性胃カタル……………232  
 慢性関節リウマチス……………324  
 慢性筋肉リウマチス……………324  
 慢性腎臓炎……………246  
 慢性麻薬中毒に依る精神障害……………361

ミ

耳の病……………346

日本船舶医療便覧病名索引

ム

百足の整傷……………<sup>頁</sup>119

メ

眼の異物……………342  
 眩暈(めまひ)……………485

モ

盲腸炎……………244  
 モルヒネ中毒……………211

ヤ

熱傷(火傷)……………146  
 夜盲症……………345

ユ

有毒魚に因る創傷……………120  
 有毒魚類中毒……………214  
 有毒菌類中毒……………213  
 指の骨折……………179

ヨ

瘵……………<sup>頁</sup>129  
 腰痛……………491

ラ

癩病……………312

リ

流行性感冒……………266  
 流行性耳下腺炎……………270  
 流行性脳脊髄膜炎……………265  
 流産……………365  
 淋疾……………326  
 淋毒性結膜炎……………343  
 淋巴管炎……………122  
 淋巴腺炎……………122  
 淋巴腺の膿瘍……………123

ロ

肋骨の骨折……………171  
 肋膜炎……………222

病 氣 の 手 當

と

---

川口常備薬の用ひ方

---

## 緒 言

川口船舶常備薬は、私の多年の経験より判断して船舶に必要缺くべからざるものゝみであります。

常備薬の用ひ方は、一個毎に付けてある詳しい能書により明らかであります。この小冊子に於ては、いろいろの起り易い病氣に對する常備薬の正しい適用を述べ、その正しい運用に遺憾なきを期しました。又同時に夫々の病氣が、どんな原因で起るか、どうすればこれを豫防する事が出来るか、そしてどう云ふ手當をすれば早く治るかに就いて簡単に説明しておきました。

云ふまでもなく、病氣になつてから治療するよりも病氣に罹らぬ事が第一肝要で、病氣を起した時にはなるべく早く簡単な手當をしてこれを治し重い病氣にならぬ用心が何よりも大事なことであります。先づ豫防、已むを得ずして治療といふことでなければなりません。是非さうありたいと思ふのであります。

## 一、胃腸病の手當と川口常備薬

胃腸病にはいろいろの種類があり、いろいろの原因で起ります。食過ぎとか飲過ぎとか腹部冷却等の不攝生を始め、飲食物が不消化であるとか未熟であるとか腐敗に傾いてゐるとか、不潔になつてゐて色々な微菌が附いて居るとか、有毒なものを含んで居るとか云ふ様な場合には、その爲めに胃や腸が害はれて色々な程度の種々の病氣が起ります。

その中一番多いのは急性胃腸カタルで、恐ろしい生命にも危険を及ぼす腸チブス、バラチブス、赤痢、疫痢等の消化器系急性傳染病も、色々な食物中毒も皆飲物、食物の不注意から罹るのであります。「口は禍の門」とは衛生上から云つても至言であり、一日も忘れてはなりません。

急性胃腸カタルの時には、大抵胃の部が重く、水落が刺し込む様に痛み、胃袋の中に飲食した物がとゞこほる様な感じがしてゲップが出たり、悪心があつたりして、本當に吐きます。しかも何回も繰返して苦しみながら吐き、吐物は飲食物の残りに多くは粘液を混じ、にがい胆汁までも吐くことがあります。口が渴き、食慾がなくなり、原因になつた刺戟物が腸に進むと、臍の部から下腹にきりきり痛み、腹がはりそして鳴つて下痢や裏急後重しぶりばらを起します。大便は、一日二、三回から十數回或はそれ以上に多くある事もあり、便の状態は食物が消化れずに出る事が多く、粥の様なものもあり、水の様なものもあり、粘液や甚しい時には膿や血液が混つて來る事もあり、便の色や臭も種々と變ります。軽い場合には熱は無いが、重い時には高熱を發する事もあり、従つて頭痛眩暈全身倦怠などを起し急に身體が衰へます。

この急性胃腸カタルの時の手當としては、先づ安靜に臥床させて原因となつた有害物を體外に出すのが一番よろしい。嘔吐と下痢は自然が自發的にこの事を行ふのであるから病氣の始めの時期に、悪心があれば早速指を咽頭に入れてはかせる。下痢があつてもすぐにとめてはなりません。腹部が痛む時は懷爐 温タンポ又は温かい濕布や巴布で腹を温めるがよろしい。恢復期になつたらフランネル又は毛糸の腹巻を纏ふて腹部の温度の差を防ぎ、胃腸の安靜を保たせる様にするとよろしい。始め一日間は、餘り冷くない薄い番茶を口の乾きを醫す程度に少量宛飲む事にして、其他の飲食を一切しない。快方に向ふに従つて、葛湯、重湯、果汁、野菜スープ、牛乳の様な暖かい流動食から始めて、段々粥の薄いのや鶏卵、うどん、おぢや、煮た魚肉等を食し、次第に常食に進む様にせねばなりません。當分は飲食物の攝生を守り、不消化な生の野菜や果物、餘り脂濃い物、香味の強い刺戟性食餌、冷い飲み料、炭酸を含む飲料、酒類は避けねばなりません。以上の様な注意の下に手當をしても、腹痛、嘔吐が止らぬ時は川口腹痛頓服を又は①處方を一回に頓服或は、②處方を三回に服用する。三四日しても食慾が進まず下痢が治らぬと云ふ様な場合に、始めて下痢止と川口消化錠或は健胃錠9錠を毎食前に分服し、①の水薬を三回に分けて食後に之を服む様にした方がよろしい。單純の急性胃腸カタルは大抵この手當でよくなります。

① { 磷酸コデイン錠 2-5錠 (1回頓服)	② { チアスターゼ 0.5 重炭酸ソーダ 3.5 ロートエキス 十倍末 0.3 (1日3回分服食後)	③ { 稀鹽酸 1.0 苦味チンキ 2.0 蒸溜水 97 (1日3回分服食後)
-------------------------------	---	--

以上の急性胃腸カタルは今まで全然健康であつた人に前述の様

な原因があつて急に起るか、それ程目立つ様な原因なしに、長い年月に亘つて、急性胃腸カタルと大同小異の症状が、よくなつたり悪くなつたり出没する事が非常に多い。胃のあたりが食後張つて胸がつかへた様になる。時々痛む。痛まぬまでも何となく胃の所が氣持が悪い。嘔氣が來たり吐いたりする。食物が胃袋の中でなかなか消化ない様な氣がして空腹になつたといふ感じが起らない。食慾がどうも進まない、腸もわるく、ガスがたまつたり、ぶつぶつ鳴つたりするなど云ふ様な訴へをならべ、長くなると神經衰弱の様になつて、頭が重かつたり痛かつたり、不愉快で憂鬱になつたりします。これは慢性胃腸カタルが潜れてゐるため比較的軽い刺戟が作用しても急に容態が増悪し易くなつてゐるからであります。

慢性胃腸カタルは酒を呑む人、煙草を多くのむ習慣がある人、始終急いで食物をとる癖があるとか、齶齒や齒槽膿漏などの齒の病氣があるために食物をよく咀嚼し得ないとか、食事する時間が非常に不規則であるとか、座業の人などで常に運動不足になり勝であるとか、或は食後直に労働したりする人々に、長い間の不養生が原因となつて起る事がなかなか多く、心臟や肝臟や腎臟などの病氣或は肺結核、糖尿病等の慢性の病氣のある人などにしばしば起り、又胃アトニー、胃下垂症、胃酸過多症、胃潰瘍、十二指潰瘍などの胃腸の病氣と一諸に合併して起る場合も決して少なくないのであります。従つて時々胃腸カタルを繰返す様な場合には、右の様な故障がないかどうかを醫師に就いて胃液の検査、糞便の検査、X光線検査ばかりでなく、全身の各部に就いて、くわしく診察して貰つて、合理的な治療を受けなければなりません。そこで慢性胃腸カタルの手當としては先づ第一に日常の養生法を改善せ

ねばなりません。酒や煙草を廢止する、齒の痛の病氣の治療を完全にする、常によく咀嚼する様に心掛ける。一口の飯を二十五回乃至五十回位噛んで、食事は決して急がず、一食事に二十分位かかつてする。食事後は半時間乃至一時間位の間横臥安靜にする。食事は午前、正午、午後一日三回定刻に規則正しくすると云ふ様な事をよく守つて行くのが肝要であります。若しも心、肝、腎、肺等に故障があるとわかればその治療を受け、そして胃腸消化錠を食直後或は食後三十分に規則正しく服むとか或は、①の處方を毎食前に分服すればだんだん治つて行きます。腹痛があつたりする時はその間だけ川口腹痛頓服と下痢止或は磷酸コデイン錠2—5錠を一回に頓服するか②の處方を三回に分けて飲んで下さい。大抵は穩かに健胃整腸の目的を達し元氣で愉快に暮す事が出来ます。

① {  
ヂアスターゼ 0.5  
マグネシア 1.0  
ホミカエキス  
十倍末 0.3  
(1日3回分服食前)

② {  
重炭酸ソーダ 1.5  
デルマトール 1.5  
ビタミン  
B製劑 6錠  
(1日3回分服食後)

胃アトニーは、胃袋の緊張力が弱くなりだらりとして元氣がなくなつて居るために飲食物が胃に溜つて腸の方へ下り悪くなる病氣で、いつも胸が重苦しく氣持よく腹が空く事はありません。空腹なるべき時にボチャボチャジャブジャブいふ音が水落邊でするのは多くは胃アトニーや胃アトニー兼胃下垂症であります。

胃下垂症は、胃袋が普通よりだらりと下の方に垂れ下る病氣で、弱い體質の人に多く又帶を上の方で堅く締る人に起り易い。胃下垂症だけでは、別段胃についての何の苦しみ惱みも起しませんが、これにアトニーや慢性胃カタルが加はると色々の故障が現れます。食後腹がつつぱり、いやにはる。なかなか空腹にならない、胃袋

がからであるべき時に腹で息をしたりするとガバツと胃の中が鳴る。胃の中にボチャボチャと水が溜つてる様で何となくいつも不愉快で憂鬱になる。①の處方が推奨される。

胃アトニーと胃下垂症の処置法としては滋養に富む消化し易い食物を三食に規則正しくとる事、食事を急がず咀嚼を完全にする事、食後暫くの間靜に横臥する事、下腹に腹帶をして胃を上の方へ締め上げる様にする事、飲み物を制限して餘り澤山に飲まない事、毎日三回食直後三十分に規則正しく川口胃腸消化錠を服む事などを實行しなさい、食慾は進み、元氣になり、肥へて來、全身が強壯になれば治つた證據であります。

胃酸過多症といはれるのは胃袋の中の酸液が多過ぎる症候の名で病名ではない。胃酸が多過ぎると胸やけがして始終心地が悪く、空腹になると胃がチクチク痛んだり又口の中に酸っぱい水が湧いたりします。この時には禁煙する事、齒の治療を完全にして咀嚼を充分にする事、芥子や胡椒や山椒等の辛いものを絶対に避ける事、酒類や珈琲や食鹽を強く含むものなどの刺戟性の飲食物を制限する事、精神過勞を避ける事、川口消化錠又は①の處方を規則正しく服む事などを實行しなさい。

① {  
ヂアスターゼ 0.5  
ロートエキス十倍末 0.3  
重炭酸ソーダ 3.0  
(1日3回分服食前  
胃酸過多症)

身體が丈夫そうで食慾はかなりよくとも、胸がやけるとか、酸い水が出るとか、溜飲があるとかいふ様な人に、胃潰瘍と十二指腸潰瘍とか潜むことが多いから、特に注意せねばなりません。食べ過ぎるとか又は食べ過ぎない時でも、胸やけが烈しく、臍から

水落にかけて張るやうに或はチクチク痛む、それが背中につきぬける様に痛む、食事をすると間もなくとか、空腹になりかけた時とか、夜おそくとか、早曉とかに時刻を定めて痛みが起る。痛む時に牛乳をのむとか、飯を食べるとかすると楽になる。何の苦しみも痛みもなんともないのに血を金盃に一杯も吐き、又は突然黒い大便が出て驚かされる。(黒い大便は胃や十二指腸の潰瘍の傷から血が澤山出て腹の中で變化して黒くなるのである) こう云ふのは大抵潰瘍の症候であります。

胃癌は、そのデキモノが小さい内に、少しでも早くこれを見つけて外科的手術で切り取つてしまはねば全治の道がありません。然し胃癌の初期には、これだけの自覚症状で簡単によくならぬ時には一人判断せずに醫者の診察を受けるがよろしい。

又胃潰瘍や十二指腸潰瘍などは、慢性胃腸カタルに罹つて胃酸過多になつて居る胃腸に起り易く胃癌は胃潰瘍から變症する場合があります。胃潰瘍や胃癌などは家庭薬の適應症ではないが、是等の恐るべき病氣の豫防のためには、慢性胃カタルの原因に注意して之を避け、不幸罹つた場合には前述の様な手當と養生法を守つて早く之を退治せしめ、常に胃腸を健全にして置くことが何より大事な事であります。

最後に小兒の場合、どうも食慾がないとか、元氣がないとか、神経質で困るとか、別段病氣がある様でもなく、熱もなく、咳嗽もないが、何となく弱くて太らぬと云ふ様な場合は胃腸消化機能の故障の結果である事が多い。こう云ふ様な場合には小兒消化薬又は①の處方を三回に分ち、毎食後に服ませると食慾を促進し、元氣になり、見違へる様に肥へて來ます。

こゝに一言おことわりすべきは、薬をのむ事は治療の一部分に

過ぎないと云ふ事でありませぬ、薬さへのめばそれでよいと云ふのでは決して病氣は治りませぬ。飲み物、食べ物、嗜好品、生活様式、精神の持ち方などを合理的に、衛生的にする事の方が、病氣を豫防し健康を増進し、病氣を治すためには薬をのむ事以上に肝要であると云ふ事でありませぬ。

① 

重炭酸ソーダ	1.5
ヂアスターゼ	0.5
ビタミンB製剤	6錠

  
(1日3回分服食後)  
(小兒食慾不振)

## 二、腹痛の手當と常備薬

腹痛を起す病氣は甚だ多くその起り方にも色々あります。全然健康であつたのに急に腹痛を起す病氣には、急性胃カタル、胃痙攣、急性腸カタル、膽石症、盲腸炎、急性腹膜炎、急性腸閉塞(腸重疊、脱腸依頓、捻轉)等があります。それ程急ではなく、何時からとなしに時々或は數日前より腹痛が著しいと云ふ様な病氣には、結核性腹膜炎、慢性胃腸カタル、慢性胃及十二指腸潰瘍、胃癌、腸結核、其他肝臓、腎臓、膀胱等の色々の病氣、婦人病、胸部病、チブス、バラチブス、赤痢等の傳染病等枚舉に違ない程あります。

急性腸カタル、慢性腸カタル、慢性胃腸カタルの原因、症状及手當に就いては胃腸病の手當と常備薬の項に述べてありますから略します。

胃痙攣は俗に癩とも云はれて有名な病氣でこれは胃の神経痛でその痛みは俄然上腹部に起りえぐられる様な、つきさす様な、灼かれる様な、實に激しい痛みで、如何に我慢強い人でも、顔面を

蒼白にして冷汗を流し部屋中を轉け廻つて苦しみます。其有様は傍にあつて見るに堪えぬ程の事もあり、此の痛みは食事と關係なく發することゝ、患部を押さへつけるといくらか鎮まると云ふ特徴を持つてゐます。それで患者は自分の手又は力強い他の男の手で有痛部をじつと押へつけさせたり、又は腹臥位になつて枕の様なものを以つて上腹部を押さへつけて苦しみます。この時の手當としては、蒟蒻又は懷爐で以て上腹部を熱くし腹痛頓服又は①の處方を一回に頓服させて暫くするとひどい痛が忽ちに治ります。

① 

{	磷酸	
	コデイン錠	3
	健胃錠	3

  
 (1回頓服胃瘧)

神經性知覺過敏性嘔吐、これは胃袋の粘膜炎に來てゐる神經の知覺が過敏となる病氣で神經質な人、榮養不良の人に起きる事が多く、食後胸苦しかつたり、痛んだり、悪心がし、よく吐くためにだんだん衰弱致します。かゝる場合には川口消化錠に川口腹痛頓服を併用すると非常によくきゝます。

膽石症、これは肝臓から腹の方へ膽汁を送る管の中に石がつまるのであつて割合に多い病氣であります。便秘や食べ過ぎ等が誘因となるから注意せねばなりません。この病氣の痛みも、非常に激しく、右上腹部に來ることが多く、悪感と同時に高熱を出したり黄疽を起したりします。この病氣は痛みが止まればケロリとして治つた様に思へますがまた一ヶ月か二ヶ月かの後に反覆痛み出すのが普通で根本的に治すには手術をして膽石を取除かねばなりません。

盲腸炎の時には右下腹が痛み、熱や嘔吐を起します。急性腹膜

炎が手遅れして破れたとか腹を打つた時などに起り、腹全體が非常に膨れて硬くなり、一寸壓すだけでも痛み、熱や嘔吐を起し、刻々苦悶と衰弱とが激しくなります。急性腸閉塞は腹痛の外に、腹が刻々膨れて硬くなり、どんどん嘔吐して遂には便臭あるものまで吐き、便も瓦斯も排泄がなくなり、多くは無熱で刻々と重態に陥る病氣であつて、是等盲腸炎、急性腹膜炎急性腸閉塞などの病氣は割合に多い病氣でしかも一刻も早く手術せぬと生命に關する最急性の病氣であるから充分注意せねばなりません。

其他の腹痛を起す病氣は、何れも相當重い病で、腹痛は簡単に止まらないし、止まつても病氣は治りませんから早く醫者の手當を受けなければなりません。

### 三、蛔虫の手當と常備藥

世界に於て腸寄生蟲病の一番多いのは我が國で、腸の寄生蟲の内でも一番多いのは蛔蟲であります。農村にては百人の中で九十人、都會では百人の中六十人までと云ふ大多數の我が國民に蛔虫の寄生があると云はれて居る様な状態でありまして實に國民保健上情けない次第であります。

蛔蟲の寄生する経路は糞便と共に田畑に播かれた蛔蟲の卵が野菜などに附着しその野菜を生のまま、で食べたり漬物として食べたりする時、その野菜を洗つた水が自然に井戸の中に流れ込んでゐるのを知らずにその水を生のまま、飲んだりする時に、人の口から腸の中に這入ります。卵は此處で仔蟲となり、この仔蟲は、或は腸管を貫穿して肺臓内に達します。或は腸管から膽道に進み肝臓内に入り血管に這入り心臓を通つて肺の小動脈に達しこの小動脈の壁を破つて肺臓内に達します。腸管から二つ道を経て肺臓に現



はれた仔蟲は、それから氣管支を上り咽頭を経て更に食道を下り胃から小腸に達して始めて成蟲となり盛んに産卵します。飲食物と共に口から這入つた卵が以上の体内旅行を経て成蟲になるには約二ヶ月前後かゝります。

蛔蟲の寄生によつて起る症状は、區々でありまして、中には別に異状なくそれに全然心付かずに居る人も多くありますが、急に譯のわからぬ高い熱が出たり、悪い食物も食べないのに腹痛が起つたり嘔吐をしたり下痢をしたり或は食欲が減退してだんだん元氣衰へ、頭痛や眩暈が起り易くなつたり、物事に萬事根氣が無くなつて學業の成績が低下したり、小兒では食事の好嫌が激しくなり甚だしきは壁土や炭や線香などを好む様になつたりすることもあります。

それ故右の様な症状に氣付いた時や、どうも之はおかしいなど感じた時は、直ぐ蛔蟲下しを飲んでみるのが第一です。又前述の様に蛔蟲が寄生しても別に平常と少しも變り無くそれと心付かずに居る場合が多く、蛔蟲の卵が成蟲になるのに約二ヶ月内外かゝりますから、二ヶ月に一度日を定めて家内中が蛔蟲下し或はサントニン錠3錠一日一回空腹時頓服し、之を二日間連續服用する習慣をつけてをけば一番安全であります。腸の中に蟲があるかないかは、大便の中に蟲の卵があるかどうかを時々顯微鏡で検査して貰ふがよい。

蛔蟲寄生を豫防するには野菜を生そのまま食べない事、生水を飲まない事、食事の前には必ず手をよく洗ふ事などを堅く實行し尙臺所や流しや井戸や便所を衛生的に改良すれば一層よろしい。

#### 四、頭痛其他各種の痛みの手當と常備藥

頭痛はいろいろの原因によつて起りますから先づ第一にその原因をつきとめて手當をせねばなりません。

右或は左の頭半側で、多くは眼から上の部分にえぐられる様なひどい痛みの起るのが偏頭痛であります。これは發作性に時々現はれ、激しい時には悪心や嘔吐や眩暈などを隨伴致します。此の病氣の發作には川口頭痛頓服或は①又は②の處方はよく効きますが、此の藥をのむと同時に豫防法として過食を禁じ、酒をのむ習慣の人は絶対に禁酒して常に心身の過勞を避け、規則正しい衛生的生活を實行する様にせねばなりません。

①	アスピリン錠 1	②	アミノピリン錠 2
	ブロムワレリル		安息香酸ソーダ
	尿素錠 1		カフェイン 0.3
	(1回頓服)		(1回頓服)

軽い頭痛は、單なる疲勞、單なる飢餓の時にも起りますが、頭全體に或る時は強く或る時は軽く痛み一般に神經過敏となり、疲勞し易く、多くは不眠症などを隨伴するのが疲勞性頭痛或は神經衰弱性の頭痛と云ふ病氣であります。此の病氣の痛には、川口頭痛頓服はよく効きますが、服藥と同時に攝生法として日常の仕事を規則正しくし、仕事と仕事の間に適當の休息時間を挾んで過勞を避ける様に工夫し、酒や煙草の過量や無定見な嗜好を嚴禁し、勇氣を以てあらゆる不衛生的生活を改めなければなりません。

天氣が曇るとか雨模様だとか或は少し風邪氣味だとかといふ度毎に、後頭部或は頭全體が裂ける様に痛くなり、時には肩まで痛み、頭を手拭で堅く縛るといくらか緩和されると云ふ様なのは大抵リウマチス性頭痛であります。此の病氣には頭痛頓服と川口解

熱鎮痛錠を交互に服むか、或は①の處方を三回に分けて毎食後服むとよく効きます。

- ① { アスピリン錠 3  
アミノピリン錠 3  
ブロムワレリル尿素錠 3  
(1日3回分服  
リウマチス性頭痛)

眼から上の部分の前額部や後頭部が痛む神経痛性頭痛にも頭痛頓服と解熱鎮痛錠を併用するとよくなります。

その外耳科の病氣、鼻中隔彎曲、肥厚性鼻炎、アデノイド増殖、頭鼻腔蓄膿症、中耳炎、乳嘴突起炎等でも頭痛を起します。これらはそれ等の病氣を根本的に早く治さぬと頭痛は根治しません。

眼の過勞、屈折異常例へば近視や亂視などがあるのにそれに心付かず従つて適當の眼鏡をかけずに打すて置くとか、或は緑内障其他色々の眼病の時などにも頭痛が起ります。眼の疲勞、軽い結膜炎などには眼藥を點眼して頭痛を治し、眼の屈折異常や重い眼病の時には専門家の治療を受けなければ頭痛は治りません。

齒科の病氣にも頭痛が起ります。應急手當として頬部に温濕布又は冷濕布をして川口頭痛頓服或は川口解熱鎮痛錠をのむと同時に齒の治療を早くして頭痛を治す様にせねばなりません。

胃腸カタル其他の色々の腹の病氣、便秘、寄生蟲などで頭痛が起ります。これに氣付いたならば川口消化錠や、川口小兒消化藥や蛔蟲下しなどをのむと共に川口頭痛頓服を服む様にするとよろしい。

感冒を引いて熱が出て頭痛がする時には、靜かに臥て、氷枕や氷囊で頭を冷やし川口解熱鎮痛錠を服みなさい、熱が下降し感冒が輕快すれば頭痛も治ります。色々の急性傳染病或は結核で熱の

ある時に頭痛を起します、熱が下降し感冒が輕快すれば頭痛も治ります。色々の急性傳染病或は結核で熱のある時に頭痛を起します。熱も頭痛も治らぬ時には、感冒だと思はず早く、醫者に診断を受けて手遅れせぬ様にすることを忘れてはなりません。

腎臟病殊に尿毒症には強い頭痛が起ります。糖尿病、急性及び慢性のアルコール中毒、ニコチン中毒、其他空氣の汚染に依る一酸化炭素中毒、その他色々の中毒に頭痛は付きものです。

心臟病や肺臟病や貧血や動脈硬化症や血壓亢進症の時には、そのために腦の血液循環障礙を起して頭痛を隨伴します。これ等はその原因を治療せぬと頭痛が治りません。

頭皮、頭骨或は腦脊髄の病氣例へば頭皮の外傷、丹毒、頭骨の梅毒、種々の腦膜炎、腦膜炎、腦腫瘍、腦水腫、腦脊髄の梅毒、癩癩、腦溢血蜘蛛膜下血出症などの頭痛は、多くは強く卒倒したり、人事不省になつたり、痙攣が來たり、色々の他の症狀も來、重い病氣で素人療治は危険ですから速かに治療をうけねばなりません。

最後にひとこと附言致します。

痛みの内で一番多い腹痛、頭痛、齒痛に就ては只今申し述べましたが、其他に胸の痛み、背の痛み、腰の痛み、肩の凝打つた痛み、神経痛、リウマチス、又婦人なれば月經時の下腹の痛みなど身體到る處に痛みは起ります。此等の痛みは川口解熱鎮痛錠か川口頭痛頓服かを服めば鎮ります。

- ① { アスピリン錠 1  
ブロムワレリル尿素錠 1  
(1日頓服)(齒痛)
- ② { ナリチル酸  
ソーダ錠 3  
健胃錠 6  
(1日3回分服食後)  
(腰痛・肩の凝)
- ③ { アスピリン錠 3  
ナリチル酸ソーダ錠 3  
ブロムワレリル尿素錠 3  
(1日3回分服食後)  
(神経痛・リウマチス)
- ④ { バルビタール錠 3-6  
磷酸コデイン錠 1-3  
(1回頓服)  
(月經痛・子宮瘻)

川口頭痛頓服でも川口腹痛頓服でも川口解熱鎮痛錠でも、一度服んで痛みが止まってもそれで止まり切りにならず、半日位経ってからまた痛み出す事がありますが、それは痛みだけ止めても痛みの起る原因を治さないからであります。そこで應急手當として、痛みを止めると同時に、是非痛みの原因の病氣を醫師について治す様に心掛けて下さい。

川口頭痛頓服は船暈、車暈などにも効果があります。船暈や車暈などを起し易い人は川口頭痛頓服を一日二、三回服むか①の處方を頓服すると同時に、乗船、乗車中はなるべく胃を空にする事、少くとも満腹させぬ事、船や車の異様な臭を避ける様にする事、時々新鮮な空氣を深く吸ふ事、氣持悪くなつたなら帶をしつかりと締め、身體はよく温まる様にして靜かに仰臥する事などを守つて下さい。尙乗船、乗車前に胃腸を丈夫にし、便秘や不眠症の習慣ある人は、それを治しておく事が大事であります。

①	バルビタール錠 2	アミノピリン錠 3-6	稀鹽酸 1.0
	ブロムワレツル尿素錠 3	炭酸グアヤコール丸 9-18	薄荷水 2.0
	健胃錠 3	ビタミンB製劑 3	シロツブ 10.0
	(乗船前30分頓服)	健胃錠 6	蒸溜水 87.0
	(船暈)	(1日3回分服)	(1日數回に分服)
		(結核性熱)	發熱の口渴)

### 五、發熱した時の手當と常備藥

發熱は全身到る處の色々な病氣の時起ります。割合に多い病氣で發熱するのは、第一に感冒でそれからそれに引き續いて起る病氣例へば中耳炎、扁桃腺炎、氣管支炎、肺炎等であります。第二には例へばチブス、赤痢、チフテリア、猩紅熱、麻疹、百日咳、マラリヤ丹毒等の總ての急性傳染病であります。第三には肺門淋巴線炎、腹膜炎、腦膜炎、肺結核、喉頭結核、腸結核、腎臟結核

關節結核、骨結核等々の總ての結核性の病氣であります。第四には急性胃腸炎、膽石症、黄疽、盲腸炎、腸寄生蟲病、肛門周圍炎、慢性腹膜炎、腎盂膀胱炎等の腹部内臓の病氣であります。第五には腫物や傷が膿む時、お産の時黴菌が這入るために起る産褥熱等いろいろあり、其他腦の故障や精神感動でも發熱しますし、一々枚擧するに違ありませんが是等いろいろの原因の内が一番多いのは感冒を引いた時であります。

感冒といふのは寒冷が作用するために健康が障害される事あります。私達の身の一部或は全部を冷却してから早い時には數時間後突然惡寒がして熱が出ます、身體は急に倦怠くなり食慾は減り、よく睡眠する事も出来なくなり、仕事に向いてもどうも能率があがらなくなります。先づ頻に嘔吐が出て稀薄な無色透明で水の様な鼻汁が流れ出します、時には紙で拭ふに暇ない程流れる事もあり、鼻の入口の部分に濕疹や龜裂を生ずることもあります、その中に鼻汁は粘液性になり、二日もすると濃厚になり黄みを帯びます、最後には屢々鼻の粘膜内に痂皮が出来たりして觸れると痛んだりします。多くの場合喉頭が痛み、咳嗽と喀痰が出て、大事にして手當をすると一週間位の後治ると云ふのが、單純の感冒の症狀と經過であります。感冒それ自身は誰もが經驗して居る通り、心配な病氣ではありませんが、色々な病氣になり易い點が恐ろしく、中耳、鼻、咽喉、扁桃腺、氣管、氣管支、肺等の色々な病氣は感冒が基で起る場合が多く、結核病の發病、再燃、再發とも大いに關係があり、又病氣體の感染を容易にして流行性感冒、チフテリア、猩紅熱、百日咳、急性肺炎などの急性傳染病を起し、其他急性腎臟炎、顔面神經、麻痺、神經痛、筋肉痛など様々の病氣を惹き起し易いのです。昔から「感冒は萬病の基」と云はれてゐる通りで、感冒は

ど恐ろしいものではありません。それ故感冒を引いた場合には、早速手當を急いで様々の病氣を惹起さぬ様に喰ひとめるのが第一であります。手當としては、心身を安靜にする事、身體を温かくし温い飲みものを取り發汗させる事、高熱には氷嚢氷枕を頭部に貼する事、川口解熱鎮痛錠を服む事、頭痛の手當と常備藥及び咳嗽が出る時の手當と常備藥の頃を参照しなさい。

① { アスピリン錠 1  
プロムワレル尿酸錠 1  
(1回頓服)  
(感冒・風邪)

② { アスピリン錠 3  
アミノピリン錠 3  
健胃錠 3  
(1日3回分服)  
(流感)

感冒の豫防には身體の冷却を務めて避ける様にすると同時に、不斷の努力を以て常に衛生を守り、身體全體の抵抗力を強める事が第一に肝要であります、弱い體質の人や、哺乳兒や少年期の人や婦人ならば月經時や、産前産後には、感冒に罹り易く且つ重い合併症を惹起し易いから特に注意せねばなりません。感冒は赤道を中心にして南北の兩極に進むに従つて多く、一年を通じて冬期が一番多い病氣でありますから、特に冬の衛生によく注意する必要があります、殊に室内換氣が不十分で、塵芥や有害物質が空氣中に増加しますと感冒に罹り易くなりますから、ストーブ生活の間は、一日何回となく窓を充分に開放して換氣し、日光を射入して空氣を清淨にし、掃除をよくして塵芥を除くことを決して怠つてはなりません、又飲酒と喫煙と不衛生とは感冒を引き易くさせますからその悪い習慣は是非やめた方がよろしい。

それから單純の感冒であるか、他の全身性傳染性の病氣の前驅症狀としての感冒様な症狀であるかは、素人では區別困難でありますから、出來得る限り醫師の精しい診断を受ける様にせねはなり

ません。

## 六、咳嗽が出る時の手當と常備藥

咳嗽は咽喉、氣管、氣管支、肺、肋膜などに病氣がある時に出来ます。又飲食物が誤つて氣管の方に這入つたとか、昆蟲や塵埃が何かの調子に氣管の方に吸ひ込まれた様な時に、之等を外に咯出せんとして起ります。又有害瓦斯や煤煙や非常に冷たい空氣などを吸ひ込んだり、辛いものを飲食したりする時に刺戟されても起ります。又婦人病やヒステリー等の時に神經性に起る事もあります。

何れにせよ、咳嗽が烈しくなると、そのために胸や腹や頭が痛くなり、夜分よく睡眠が出来ない事も多く、顔が腫れて來たり、呼吸が困難になつたり、咽喉や肺から出血したり子宮脱、放尿などが起る様な事もあつて、非常に疲れ、身體が急に弱ります。(發熱に咳嗽を伴ふ場合)は①の處方を用ひるとよろしい。

① { アスピリン錠 3  
アミノピリン錠 3  
磷酸コデイン錠 3  
(1日3回分服食後)  
(發熱に咳嗽を伴ふ場合)

咳嗽の出る時の手當としては、一緒に咯痰の出る時には、なるべく痰をとかして出易くするだけでよろしいので、とめるのはよくありませんが、咳嗽が強いが咯出物の出ない所謂乾咳はなるべく鎮靜した方がよろしい。一體咳嗽は我々の意志で抑制し得るものがありますから、咳嗽の出る時には自分でおさへる様に修養することが第一に肝要であります、そのためには、鼻から淺く安靜に呼吸し、出来るだけ沈黙を守るとよろしい、反對に身體を激動させたり、深呼吸をしたり、高い聲で談話をしたり、笑つたりすると咳が餘計に出て來ます。よく神經質の人などでは、少しの痰をも咯出し様

とあせり、不必要に多く咳嗽をする事もありますが、それは肺臓の安静を打破する結果となり、病氣のためによくありません。咳嗽刺戟が起つた時にゆつくり呼氣をして、次に強く短かく呼氣を十回位すると咳嗽せずに済みますことが出来ます。又温かい牛乳、砂糖湯、飴湯等を飲むのも鎮咳の効があります。又咳嗽は咳嗽を生むものでありますから、最初の咳嗽をどの方法かに依て制壓すると、次で連続して来る咳嗽を止め得る場合が少くありません。尚、次に注意を要するのは、部屋の空氣を新鮮に濕潤にする事であり、塵埃多き空氣、有毒瓦斯、乾燥した空氣、外氣の急變などは咳嗽によろしくありません、同時に喫煙を禁じなければなりません。又咳嗽はある體位になると間斷なく出るが、反對の位置を取れば非常にならなくなる事がありますから、適當な臥位を取り、不必要な咳嗽はなるべくしない様に注意せねばなりません。咽頭がはれて痛む様な場合には含嗽をし、(①又は②處方)喉頭部が痛むとか、かゆいとか、痰がからむとかいふ時には吸入(③處方)や頸部に温濕布(④處方)をし、胸部がひびいて痛い様な時には胸も温濕布するとよろしい。

①	鹽素酸カリ 10 食鹽 5 薄荷水 20 水 480 (含嗽料)	②	乳酸エトオ キシチアミノグリチン 0.5 薄荷水 20 水 450 (含嗽料)	③	重炭酸ソーダ 3 食鹽 2 グリセリン 5 水 95 (1回20-50瓦吸入)
④	薄荷水 20 アルコール 20 熱湯 460 (温布料)				

感冒を引いて咳嗽が出るといふ時には解熱鎮痛錠と共に咳薬を飲んで治しなさい。

結核や流行性感冒は、病人の嚏とか、咳嗽とか、談話をするとき、唾液と共に飛散する肉眼に見へない小さな飛沫から傳染し、かゝる

飛沫は普通口唇から四分の三米飛び、時としては三米以上も飛ぶことがありますから、紙やハンカチを鼻や口に當て、飛沫が外に飛ばぬ様に注意し、喀痰はよく消毒し、用のない人はなるべく病人の傍へ近よらぬ方が安全です。感冒が流行つてゐる時には、外に出る時にマスクを掛けて感冒にうつらぬ様に用心した方がよろしい。

喘息は、平常はケロリとしてゐて發作の起つた時に急に咳入りヒーヒーのどが鳴り非常に激しい咳嗽と呼吸困難が來ます、これは頑固な病氣で、氣永く養生せねばなりません。常に適度の戶外運動を爲し、過飲過食をせず、刺戟の強い飲食物を食べない様にして、便通を規則正しくして、全身の強壯を計つて病氣を次第に追拂ふ様にするのであります。

小兒はすべて大人より抵抗力が弱く、感冒の咳嗽でもこれを放つて置くと氣管支カタルや肺炎を惹起し易いものですから、少しも油斷は出来ません、頭及胸に濕布を施し、吸入も含嗽もなるべくさせて、早く醫者の診療をうけた方がよろしい。

①	セネガシロツブ 10 磷酸コデイン錠 3 ヨードカリ錠 1 蒸溜水 90 (1日3回分服食後) (百日咳・喘・頑固な咳)	②	アスピリン錠 3 磷酸コデイン錠 3 プロムフレリル尿素錠 3 (1日3回分服) (左同)
---	---	---	---

小兒の咳嗽の内、一番恐ろしいのはヂフテリヤといふ傳染病であります、咽頭に白い薄い膜の様なもの張り犬の遠吠の様な一種特別の咳嗽が出ますから、大抵は氣が付きます、手當が遅れると咽喉が塞がれて呼吸が止るといふ實に危険な病であります。然し早い内に氣がついて、醫者の注射を受ければ必ず治る病氣ですから、呉々も注意して手遅れとならぬ様にせねばなりません。

百日咳も傳染病ですから、ヂフテリヤの時と同様病兒に他の小兒

を近づけない様にせねばなりません。百日咳はなかなか治り悪い病氣ですが、咳の手當をすると共になるべく滋養物を食べさせて身體の強壯を計つた方が、餘病も起さず治りが早いのであります。

### 七、皮膚の病氣の手當と常備藥

皮膚病の中で一番多いのは、俗稱くさ、たぐれ、あせも等の名で知られてゐる濕疹であります。之は體質と大いに關係があり、種々の刺戟が作用するために起る皮膚の表面のカタルで、赤いぶつぶつが出来て、腫脹れ、水氣を持つたり、膿を持つたり、爛れたり、乾いて困まつて痂皮となつたり、又はかさかさになつたりして、痒がります。頭、顔、鼻、耳、乳房、乳暈、陰股、肛圍、肘窩、膝

等全身到る處に色々な型を以つて不規則に現はれ、急性に起ることもあります。再發し易くなかなか頑固に経過するものもあり、慢性になりますと皮膚は厚くなり、皮膚の色も變り、龜裂が出来る事もあります。

又皮膚炎と云つて、漆かぶれ、土かぶれ、白毛染かぶれ等で起る病氣では、皮膚が紅くなつて、一面に腫れ、非常に痒ゆがり殊に、夜分甚だしくよく眠れずに苦しみます。

晩秋征雁の頃になると、がんかさ(痒疹)が悪くなり出し、痒いので掻くためによく濕疹を併發します。

冬になると、ひび、あかきれ、しもやけ、などが出来易くなります。崩れるとひどくなり、そのまま放つて置くと黴菌が這入つて膿んだりする事があります。

濕疹、皮膚炎、がんかさ其他の皮膚病には、刺戟が一番の禁物です。搔いたり、擦つたり、石鹼で洗つたりするのはいけません。軽い中に川口皮膚膏をよく貼り付け、その上に軽く繃帯して置くの

が一番よろしい。色々な藥品を使用すると反對に刺戟されて悪くなるから注意せねばなりません。一般に皮膚病は経過が長く、根氣よく手當をせぬとなかなか治りません。食物は消化し易い淡白なものにし、刺戟性のものをとらぬ様にし、胃腸の工合がよくない場合には川口消化錠をのんで下さい。ひび、あかきれ、しもやけの崩れたのには、川口皮膚膏か傷藥を用ひなさい。

黴菌や寄生蟲によつても色々な皮膚病が起ります。

その中、癬(疔)や癰などの腫物や、俗にとびひと云ふ膿痂疹の類の中には、無数の黴菌がゐますから丁寧に脱脂綿で膿を吸ひ取り、他の健康な皮膚に蔓延しない様に注意し、傷藥を貼付し、繃帯するがよろしい。

しらくもあたま、はたけ、せにかさ、せにたむし、たむし、靴むし、いんきんたむし、などは皆白癬菌によつて起り、又胸に褐色の斑紋が現はれ、夏に悪くなる、非常に頑固な経過をとる、なます、といふ病氣は、癩風菌に依つて起り、共に痒いので多くは濕疹を伴ふもので、やはり皮膚膏を用ひるとよろしい。

黴菌による皮膚病の場合には、次に述ぶる寄生蟲による皮膚病と同様に、病人の帽子、枕覆、櫛、手拭、剃刀及び理髮器械、衣服、敷布、布團、洗面器などを熱湯洗濯等の方法で嚴重に消毒しなければなりません。

其他黴菌による皮膚病には、丹毒、軟性下疳、黴毒(かさ)、狼瘡(皮膚結核)、癩、放線菌等の危険な傳染性のものがありますが、是等は素人療治は不可能であります。

次に寄生蟲による皮膚病として俗に、しつ或はひぜんの名で知られてゐる疥癬は、傳染性が強く、腎臓炎を起す事があり注意せねばなりません。非常に痒いので掻くために、大抵濕疹があります。皮

膚膏を用ひる事及衣類寢具の消毒は特に嚴重にする事などを實行して下さい。尚しらみ、のみ、なんきんむし、だに、すかり、くも、むかで、はち、か、はひ、あぶ、が、けむし、ひる等の寄生蟲によつても皮膚病を起します。その應急手當には、薄いアムモニア水を脱脂綿に浸して塗り、ひどく脹れたり、崩れたりした時には傷薬を用ひなさい。その豫防には常に清潔を守り、それ等の寄生を避ける様にせねばなりません。タール pasta 10瓦、一日2回、患部塗布（濕疹、乾癬、皮脂漏）亞鉛華オレフ油10瓦、一日數回、塗布（皮膚炎、かぶれ、潰瘍）亞鉛華澱粉10瓦、一日數回、患部撒布（たゞれ、濕疹、汗疹）、デルマトール 10瓦、一日數回、患部撒布（同上）、サリチル酸アルコール、一日1—2回、患部塗布（インキン、タムシ、ハタケ、シラクモ（白癬）水虫 ビック膏一日1回貼付（癰、疔、瘰癧）、アムモニア水、塗布（毒虫、毒魚、刺傷）。

#### 八、負傷や火傷の手當と常備薬

負傷と云つても原因によつて色々で、皮膚のみ、きずするだけの事もあれば、骨や内臓まで及んで重態に陥ることもあり、即死の不幸を見る事もあります。家庭で手當の出来るのは、傷が浅くて小さいものが、重い傷でも、活り際になつて表皮形成の時機に限ります。深い傷であるとか、出血が多いとか、骨や内臓まで故障が及んであるとか云ふ様な場合には早速、醫師の治療をうけなければなりません。

如何なる場合でも、その傷から微菌を入れぬ様に注意しなければなりません。微菌が這入ると、化膿したり、丹毒や破傷風や敗血症などの恐ろしい合併症を起す危険があるからであります。従つて決して不潔な手指や器械器具類などを傷口にふれてはなりません。

ん。傷口に泥や砂や埃などが付いてゐる様な時には、オキシフルの様な消毒薬で洗つて、傷の周囲は、直ればリゾール水や清酒やヨードチンキなどの消毒薬で清拭して、それから傷薬をつけ、その上に繃帯するのが一番安全であります。

それから傷口に凝血が付いてゐる様な場合には、決してこれを除去してはなりません、出血を促す危険があるからであります。總て傷から血が出て、なかなか止まらない時にはその傷より心臓に近い所を紐で堅く括れば血管が壓迫されて血が止まります。指先を傷した時は指の根本を、膝を怪我した時は太股を括れば血が止まります。

地上にころんで膝をすりむくとか、床擦れ、股擦れ、靴擦れなどの擦過傷は皮膚のみの傷で出血も軽く、オキシフルなどで清潔にして傷薬を貼り、繃帯する丈でよろしい。

小刀、剃刀、硝子の破片等のやうな鋭利なもので怪我した時の切傷や、鋏、鉞、斧などの様な鈍い刃物で怪我した時の切傷の場合には、適當に止血法を行つて後、傷薬を貼り繃帯をしておけば自然に治るけれども、大きい傷は縫合の必要がありますから、醫師の治療をうける様にせねばなりません。針、釘、錐、竹木などの棘や切端などの尖つたものをつき刺す時の刺傷の場合は、傷口も小さくて血の出る事も少いけれども、釘なれば錆、竹木なれば土其他不潔物又は微菌等が深く這入り込むために、化膿しやすく、又破傷風を起す事がありますから、消毒を嚴重にし醫師の治療を受けるのが安全であります。

次に咬傷の手當は切傷や刺傷の場合と同様であります。注意せねばならぬ事は、狂犬の咬傷は狂犬病を起し、鼠の咬傷は鼠咬症になることがあり、毒蛇に咬まれると毒が心臓を侵して死亡するこ

ともあることであります。こう云ふ場合には咬傷の上部を縛り、傷にヨードチンキを滴下し、それも無い時には、石鹼水或は焼酎或は酒等に食鹽を加へたもので傷を洗つて、指で血液を絞り出し、成るべく出血させてから、縛りを解き、傷の手當をして、毒を全身にやらぬ工夫をし、早く醫師の治療を受けねばなりません。

指や腕や足などの骨の折れた時には、醫師に診て貰ふ迄の手當として、その折れた部分を真直に延したまゝ、その上に細長く切つたボール紙又は折函の蓋の様な薄い板を當て、その上から繃帯をぐるぐる巻いて動かない様に固く括りつけて置く事が必要です。折れた骨を素人が無暗に動かすと、非常に痛むばかりでなく、折れた骨の位置が動いて、元通り附着し難くなる危険がありますから注意せねばなりません。

又、脱臼、即ち關節のはづれた時も、素人が動かすと危険ですから、失張り、醫師に診て貰ふ迄は、しつかり動かぬ様に括つて置きなさい。

火傷をした時は川口火傷膏又は亞鉛華オレフ塗布で治りますが、若し身體の三分の一以上も火傷した時は生命に係る事がありますから、直ぐ醫師の手當をお受けなさい。創傷面の消毒には①稀ヨードチンキ(創傷面滴下)、②2%マーキュロクローム液(創傷面滴下)、③過酸化水素水(洗滌) ④0.5%クレゾール石鹼液(洗滌)、⑤50%アルコール(洗滌)、⑥0.1%乳酸エトキシチアミノアクリリン液(洗滌)。傷面撒布は①デルマトール(撒布)、②ヨードホルム(撒布)、創面塗布は①硼酸、軟膏 ②10%デルマトールワセリン軟膏を塗布しなさい。

## 九、婦人病の手當と常備薬

婦人で下腹が筋張つて痛かつたり、腫瘍の様なものを觸れたり、腰の邊が痛く足の方まで引つたり、白帯下が多かつたり、月經でない時に出血したり、不順である苦なのになかつたり、その度毎に下腹が痛くなつて床に就かねばならなかつたり、やゝもすれば下腹、足腰が冷え易く、肩が凝るとか、耳が鳴るとか、眩暈がして逆上が來るとか頭が重いつつとか、痛むとか、夜分よく眠れずどうも氣がふさいで困るとかいふ様なのは、婦人病のある時の普通一般に現れる徴候であります。

こう云ふ場合には、心身を安靜にして、腰や下腹を冷やさぬ様にし、時によつては温濕布で温ため、便通を一日一回ある様に工夫し、婦人湯又は處方①又は②を服み、病氣の軽い間に簡単な攝生法で治す様に心掛けなければなりません。

①	ロカイヤラツバ丸	3	②	ブロムカリ	1.5
	ブロムワレリル	3		苦味チンキ	2.0
	尿素錠			水	98
	(1日3回分服食後)			(1日3回分服食後)	

婦人病とは、腔、子宮、喇叭管、卵巣などの病氣を總稱して云ふのでありまして、其の發育又は位置に異常がある爲め或は癌腫、筋腫、囊腫などの腫物が發生する爲めに起る事もありますが、大部分の婦人病は、冷え込みとか月經時の手當を疎かにするとか、産前産後の養生を等閑するとか、いろいろの平素の不攝生に原因して起るか、或は淋毒とか、黴毒とか、結核とか、いろいろの感染に原因して起るのであります。

俗に「帯下は女に付き物」など、申しますが大變な誤りで、産



後にあるもの以外は、大抵病的の帯下ですから放つて置いてはいけません。病気の帯下は不妊の原因となる事があり、帯下にひどい悪臭があり、時々出血したりするのは癌による場合が多く、又不時に出血するのは筋腫による事が屢々ありますから、殊に注意を要します。下腹に自分でも腫瘤の様なものを觸れるといふ様な場合は、卵巣嚢腫と云ふ病気である事が多く、同時に高熱が出るといふ様な場合は、喇叭管に膿を持つたりする重い病気である事も少なくありません。こういう病気に對しては、素人療治は効果がありません。一日も早く醫師の診察を受けて、その原因を突き止めて手遅れにならぬ中に根本療法を行はねばなりません。

此處に一言注意すべきは少女の外陰部や腔の病気が割合に多い事で、殊に恐るべき淋毒性のものが少ない事であり、これは多く淋毒のある母其他の人より傳染するのであります、又蟻蟲といふ腸の寄生蟲は睡眠中に肛門から出て来て、その附近に卵を生みますが、此時搔痒を感じて手で搔く、搔くために陰門炎や腔炎を起す事も少なくありません、家庭では此の點よく注意する様に心懸け、氣付いたなら早速醫師に就いて治療を受けなさい。

婦人病の原因は前述の通りでありますから、その豫防には平素の攝生と月經時の手當と産前産後の養生法と衛生的にする事が何よりも肝要であります。

月經時には、清淨なガーゼと脱脂綿とを當て、その上に丁字帯を施すか又は適當な月經帶を用ひ、毎日二、三回微温湯で外陰部及び其の附近をきれいに、丁寧に洗つてよく清潔に保つ様にせねばなりません。終れば入浴して清潔にし、出血する間は入浴や激動を禁じ、心身の安靜をはかり、感冒を引かぬ様に注意するがよろしい。月經毎に下腹が痛み普通の仕事も出來ず、寝なければならぬ様

な人はよく診察して貰ふ様にしなさい。

産前産後の養生法としては、精神の攝生と身體の清潔と身體の無理をせぬ事を實行すればいいのであります。

妊娠中は生活様式をかへる必要はありませんが、萬事無理せぬ様に平素よりも一層の注意を拂ふ必要があります。それは妊娠すると些細の事にも故障を起して病気に罹り易くなり、病気になると経過も長く容態も重くなるからであります。先づ注意すべきは精神の攝生でありまして、常に精神を平靜にして感動をさけ、常に快活になり、夜は安眠をとり、大いに胎教に努めなければなりません。次に清潔に保つことでありまして屢々入浴するとか陰部を一日數回微温湯で洗ふとか或は脱脂綿でよく拭ふとかして、全身殊に陰部を清潔に保つことが必要で、又乳房の清潔と健全に注意し、哺乳しやすいやうに準備しておく様心掛けねばなりません。飲食物は平素の通りでよろしく、たゞ偏食にならぬ様にし、たうがらし、わさび、からし等や濃い茶や、珈琲、酒類は禁じ、適度の運動、殊に新鮮な日光豊かな空氣中での戸外の散歩は甚だ必要であります、長い旅行や、強く腹にりきみの伴ふ仕事は避け、便秘せぬ様にし、尿意はこらえぬ様にし、凡そ五ヶ月頃から腹帶を使用する事などを實行して下さい。若し悪阻が強いとか、浮腫とか、出血するとか、身體に少しでも異常を感じたならば決して手療治せず早く醫診をうけねばならぬ。

お産後は安心と疲労とで安眠が必要でありますから、無用の人をその寢室に入れぬ様に、訪客も謝絶して安眠と休養とを妨げぬ様にせねばなりません。産後二週間は家事の指圖や其他の感動を避け、精神の安靜休養が最も肝要であります。次には身體の安靜を保つ必要があります。普通の場合は産後初めの二、三日間は仰臥に

絶對安靜にし、次で側臥は許し一週間位に食事の時だけ坐らせ、十日乃至二週間で便所や洗面所まで歩行させ、三週間で離床させる様にする、但し餘り早く運動するのも、餘り長くねてゐるのも共にいろいろの故障を起しますから注意を必要とします。次に清潔と防腐といふ點に充分氣を附けなければなりません、惡露の手當には、殺菌ガーゼをあて丁字帶をかけ一日數回交換し、此時指を嚴重に消毒し、外陰部は〇・五%……一・〇%リゾール水にて拭き、決して産襁褓や古布片などを使用してはなりません。乳頭は乳をやる前後二%硼酸水又は清水でよく拭き、またきずの出來ぬ様にせねばなりません。食物はお産後第一日、第二日は重湯、葛湯、牛乳、スープ、半熟の鶏卵などを攝らせ、第三日、第四日頃からお粥、軟いパン、味噌汁、刺身などを許し、第二週から常食に進めて行く様にします。

### 船内用劇薬に就いて

「参考」藥品營業並藥品取扱規則（明治二十二年三月法律第十號）第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名數量使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ滿十年間之ヲ保存スヘシ

寫

四衛第七三五號

昭和十四年三月三日

厚生省衛生局長 殿

京都府知事

鈴木 敬一

船長或ハ船舶業者ニ劇薬販賣ニ關スル件

客年三月二十五日遞信省令第二十一號ヲ以テ改正セラレタル船員法施行細則ニ依リ醫師ノ乗込マザル船舶ニモ指定ノ醫藥品ヲ常備スベキ規定ノ處該藥品中ニハ磷酸コデイン錠、クレオソート、ヨードホルム等ノ劇薬アルモ此等ヲ右ノ目的ノ爲ニ無資格者タル船長或ハ船舶業者ニ對シ藥品營業並藥品取扱規則第三十條ニ依リ販賣又ハ授與スルモ支障無之哉聊カ疑義相生ジ候條一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

乙醫第二九六號

昭和十四年五月十八日

京都府知事 殿

厚生省衛生局長

船長或ハ船舶業者ニ劇薬販賣ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ三月三日付四衛第七三五號ヲ以テ御照會有之候處右ハ船員法施行令第十二條及同施行規則第七十二條ノ規定ニ依ル常備藥品ハ船舶所有者又ハ船長ニ限り藥品營業並藥品取扱規則第三十條ニ依リ御取扱相成支障無之ト存候



！司藥の海心安体絶



大阪港唯一の船舶用薬品専門店

# 川口薬局船舶部

創業明治四十年

營業科目

醫療用理學用器械

醫療用機關用無線用

藥品、油、酸、アルカリ類

船内硫黄石炭酸青酸瓦斯

ニヨル消毒作業請負

大阪市西區本田三番町  
電話西④二三五五番

特231

905

川口藥局

特231  
905

終